

2010 静岡大学公開セミナー報告集

通巻第7号

学ぶって楽しい！－大学で学ぼう－ 学びの内容とその支援



静岡大学生涯学習教育研究センター
(講座企画 静岡県障害者就労研究会)

2010 静岡大学公開セミナー報告集

通巻第7号

学ぶって楽しい！－大学で学ぼう－

学びの内容とその支援

静岡大学生涯学習教育研究センター

（講座企画 静岡県障害者就労研究会）

目次

挨拶.....	4
[概要編]	
講座の趣旨（徳増五郎）	6
知的障害のある人の生涯学習について	
ー全国各地のオープンカレッジと大学講座の実施状況ー（高木 亮）	8
静岡大学公開セミナー「学ぶって楽しい！ー大学で学ぼうー」の	
11回の取り組み（渡辺明広）	14
[演習・講義編]	
アイスブレイク～学びのなかま～（大畑智里）	25
描くことの魅力を探ろう～色やかたちを見つめて～（高橋智子）	29
日本の食生活を知ろう！（新井映子）	41
世界の人と「こんにちは！」（案野香子）	57
[資料編]	
受講後のアンケートのまとめ（川原貴之）	72
学びのパートナーとして、いっしょに受講して（渡辺明広）	74
参加者の感想（山中佑美）	77
これまでの「学ぶって楽しい！ー大学で学ぼうー」（五條由美子）	81
スタッフ名簿	87
編集後記	89

挨拶

すでに学校の課程を修了した、社会人の学び（生涯学習）の有りようはさまざまでしょうが、講義を多くの人と一緒に聴いて学ぶことも、意義が大きいものと思われます。静岡大学公開セミナーの毎回の講義内容は、受講を希望する社会人の人たちのリクエストをもとにした、今日的な話題や関心の高いものばかりです。現代に生きる人々の一般教養ともいうものでしょう。

また、この公開セミナーに参加される社会人は、学びのパートナーである学生との交流を大変楽しみにされている方も多い、と聞きます。この学びは人との出会いとつながりの機会の場になっています。

今年度も、年2回の静岡大学公開セミナーを開くことができました。このセミナーは大学の教官などによる講義が中心ですが、企画や工夫もいくつかあります。その1つ、昨年度から、毎回のセミナーの始まりに、ミニ講義（演習）のワンポイント心理学（アイスブレイク）を設けました。社会人と学生のみなさんが緊張をときほぐし、リラックスして講義を受けられるように、という配慮がされています。また、講義の中にスモールワークの設定がなされており、講義を聴くだけでなく、手を動かし、学びのパートナーと考える活動が組み込まれています。そして、3時間のセミナーは学生による司会、進行で進めています。社会人の皆さんの恩師である養護学校（特別支援学校）の先生が担当するものではなく、大学生の進行は学びの場が大学ならではの雰囲気作りに一役買っています。

ささやかな企画や工夫ですが（また手前味噌になりますが）、各地の大学公開講座などからも参考にしたい、と注目されています。これからも、受講される皆さんとともに、社会人の学びの有りようを模索していきます。

最後になりましたが、毎回、ご尽力いただいている静岡大学生涯学習教育研究センターの先生方、ご講義いただいていた講師の方々、各地区の青年学級、特別支援学校の先生方と同窓会、静岡大学教育学部の特別支援教育専攻の学生のみなさんなど、多くの皆様に厚くお礼申し上げます。今後とも、よろしくご支援をお願いし、お礼の挨拶といたします。

静岡県障害者就労研究会代表 渡辺 明広

挨拶

静岡大学生涯学習教育研究センターは、本学が長年にわたって蓄積してきた知的資源を地域社会に開いていくための窓口です。1997年に設置されて以来、公開講座や公開セミナー、シンポジウムなどの大学開放事業を実施するとともに、地域の方々と連携してさまざまな事業を行ってきました。

この「学ぶって楽しい！—大学で学ぼう—」は、静岡大学の中でも特色ある取り組みです。生涯学習教育研究センターでは、公開セミナーという形で講座運営のお手伝いをしています。

一般市民の学習の場として大学を開放するだけでなく、知的障害者に生涯学習の場を提供していくことも、これからの大学にとって重要な役目だと思います。知的障害をもつ社会人を対象にしたこの取り組みは、生涯学習という観点からも、非常に価値のあることだと考えています。さらに、「学びのパートナー」として講座運営に協力してくれた本学の学生にとっても、大きな意味があることは言うまでもありません。

健常者・障害者の垣根なく、大学が地域の中でもっと身近な存在になれるよう、これからも努力していきたいと考えています。この講座をきっかけに、大学との新しい関係が生まれ、未来に向けて育っていくことを願っています。

最後に、「学ぶって楽しい！」の開催にあたっては、実質的な企画をされた静岡県障害者就労研究会のみなさま、ボランティアで講座運営に尽力してくださった各特別支援学校のみなさまや学生たちの多大なるご協力をいただきました。厚く御礼申し上げます。

静岡大学生涯学習教育研究センター長 阿部 耕也

講義の趣旨

徳増 五郎

はじめに

静岡県障害者就労研究会（以下、本研究会）は、知的障害特別支援学校の卒業生の就労の拡大・継続と生活支援の研究活動を行っており、就労を支えるためには、余暇の充実や生涯学習が重要であると考えている。つまり、知的障害者にとっても、学び続ける機会があることは、社会参加の機会と幅が広がり、人生をより豊かにすることができると考えているのである。具体的には、自然界の現象や社会における出来事、さらには専門分野の講義を聴くことを中心に学びを進め、深めることも可能であると思われるのだが、これまではこうした種の学習の機会が、成人の知的障害者には用意されていなかった。

しかし近年、障害のある人への学校教育以外の教育的取り組みは、「生涯学習」という枠組みではないものの、さまざまな実践が展開されるようになった。静岡県内では、2005（平成17）年から、本研究会が、静岡市及び周辺の青年学級等の人たちに呼びかけ、科学と地理、外国文化等についてのテーマの講義を聴く講演会を開催している。毎回、知的障害のある社会人が40～50名、学習支援者として20数名の学生と一緒に受講し、学ぶことができる講座を目指している。

静岡のスタイル

静岡での講座を開催するにあたって、本研究会に実行委員会を設置した。そして、先進的な取り組みをしている講座を見学させていただいたり、文献による調査をしたりしながら、静岡ならではのものを作りたいと考え、以下の二点を大切にしていこうとした。

（1）主体的な学びに

「こうすることが望ましい」といったことを教える授業ではなく、参加者が「こんなことを学びたい」と思う事項を題材としたい。また、体験活動のみで「面白かった。楽しかった」というような、単なる遊び感覚にならぬよう、「知的好奇心をくすぐりつつ、難しいことを分かりやすく、自分たちなりに考える場を設けた」講義を目指したいと考えた。

そこで、参加者の希望から講義内容を決めた。至極当然のことではあるが、要望に適した講師を探すことは、なかなか容易ではなかった。幸い多くの方々から「こんな先生がいらっしゃるよ」と情報提供していただくことができ、非常にありがたかった。

その後、本講座の趣旨を理解していただいた上で様々な環境設定するために、講師の先生方と何回か打ち合わせをさせていただいた。その中で、視覚や聴覚にうったえる教材を用意することや実験等の体験活動の導入、ワークシートへの記入及び小グループによる話し合いの時間（スモールワーク）の確保といった展開が有効ではないかと考えた。受講生の学びの様子や感想、アンケートの結果から見ると、こうした環境設定が魅力ある講義につながったと思われる。

（2）ユニバーサルな学びに

講義の中で、課題解決に向けて意見交換をすることにより、お互いがお互いを理解したり、共に学ぶことができ良かったという充実感や達成感を持ったりすることは、非常に意義深い。しかし、他地域でも障害のある人と障害のない人が一緒に学ぶことができるよう努力しているが、実現している所は少ないようである。

そこで、本講座では静岡大学教育学部特別支援教育講座の学生に、学びのパートナーとして共

に講義に参加し、必要最低限の支援のみしてもらうよう依頼した（基本的には参加者本人の自主性に任せ、参加者が困っていたり参加者に質問されたりした時のみ支援する）。

お互いが、普段接したことのない人との共同作業であったが、学生諸君が学習活動を通して参加者の意見を引き出してくれる場面が多くみられた。また、感想文から参加者のひたむきな態度が、学生には響くものがあつたこともうかがうことができ、「共に学ぶ」という目的に近づくことができたと考えている。

〔実施要項〕

○第10回実施分

<講座名> 第10回 学ぶって楽しい！—大学で学ぼう—（平成22年度静岡大学公開セミナー）

<期 日> 平成22年6月20日（日）

<場 所> 静岡大学教育学部B棟212教室

<対 象> 静岡市と周辺の地域の知的障害をもつ社会人

<講師及び講義内容>

大畑 智里先生「アイスブレイク～学びのなかま～」

静岡大学教育学部附属特別支援学校教諭、学校心理士

高橋 智子先生「描くことの魅力を探ろう—色やかたちを見つめて」

静岡大学教育学部美術教育講座講師

○第11回実施分

<講座名> 第11回 学ぶって楽しい！—大学で学ぼう—（平成22年度静岡大学公開セミナー）

<期 日> 平成22年10月17日（日）

<場 所> 静岡大学 大学会館ホール

<対 象> 静岡市と周辺の地域の知的障害をもつ社会人

<講師及び講義内容>

大畑 智里先生「アイスブレイク～学びのなかま～」

静岡大学教育学部附属特別支援学校教諭、学校心理士

新井 映子先生「日本の食文化を知ろう！」

静岡県立大学食品栄養学部教授

案野 香子先生「世界の人と『こんにちは！』」

静岡大学国際交流センター准教授

知的障害のある人の生涯学習について －全国各地のオープンカレッジと大学講座の実施状況－

高木 亮

はじめに

生涯学習についての理念が改正教育基本法第3条（2006年12月）に明確に規定され、生涯学習の機会と合理的配慮に基づく支援の保障が国連の障害者の権利条約第24条5項に示された（2008年5月3日発効）。国内外のこうした潮流を背景に、知的障害のある人たちの大学講座やオープンカレッジなどによる生涯学習が構築されつつある⁽¹⁾。

知的障害のある人にとっても、学び続ける機会があることは、社会参加の機会と幅が広がり、人生をより豊かにすることができる。知的障害のある人たちの大学講座やオープンカレッジなどによる生涯学習は、権利論、学習論、運動論としてそれぞれに展開し、深められてきている。

静岡県内では、2005（平成17）年から、静岡県知的障害者就労研究会（以下本研究会、2010年より静岡県障害者就労研究会に改称）が、静岡市及び周辺の青年学級等の人たちに呼びかけ、科学と地理、外国文化等についてのテーマの講義を聴く講習会を静岡大学で開始している。この実践が広がりを見せ静岡県東部（沼津市、三島市、御殿場市伊東市）の日本大学国際関係学部でも行われるようになり、知的障害のある社会人が、学習支援者としての学生と一緒に受講し、学ぶことができる講座を目指している⁽²⁾。

本研究会の企画・運営してきた静岡大学での「学ぶって楽しい！－大学で学ぼう－」も今年度2010年6月の講義で通算10回目の節目をむかえたところだが、全国各地での大学講座やオープンカレッジの実践を概観し、静岡スタイルを大切にしつつも、これまでの実践を見直し、今後の「学ぶって楽しい！－大学で学ぼう－」の活動に活かしていきたいと考えている。

東京学芸大学公開講座

知的障害のある人のための大学講座などの中で、最も早く行われたものの一つが、1995年から始まった東京学芸大学における本人講座「自分を知り、社会を学ぶ」である⁽³⁾。大学においては、①養護学校の卒業生のニーズに対応できる継続教育②障害のある人々の自己理解（主体性の確立）③社会参加の支援の3つを目的として、東京学芸大学で知的障害のある人々を対象とした大学公開講座の実践が実施されている⁽⁴⁾。講座内容は、生活講座（〈はたらく－仕事〉〈暮らす〉〈楽しむ－趣味・余暇利用〉〈つきあう－交際・結婚〉）と教養講座（大学近郊の自然環境から学べる題材）の2つの領域で構成された。

この公開講座の実施においては、学習成果の検証が進められ、受講生はこの経験を通して「勉強がしたい」という学びが喚起されたと同時に、「友達を増やしたい」という希望も高い人たちであり、講座を受講することによって「趣味を広げ余暇を活用する」ことを学んだことで「交際の広がり」がもたらされたことが明らかになっている。

9年間続いた公開講座の成果を引き継ぎ発展させるべく、2004（平成16）からは知的障害のある成人と一般受講生との共同学習の場として（「書に親しむ」「天気について学ぶ」「自分を守る」という3つの題材で）公開講座「いっしょに学び、ともに生きる」を開催している。2010年度で7年目を迎えたこの講座は、年間4回の講義と学びの成果を報告するシンポジウムから成る。

この講座の開催を通して、「健常者と知的障害者が講座内容を一緒に学べたか」「講座が行われている間をともに生きることができたか」について、コミュニケーション機能の分析からも検証

が試みられている⁽⁵⁾。準備を含む全ての取り組みを記録、分析し、①知的障害者に対する生涯発達支援と生涯学習支援とに資する学習プログラムの開発、②知的障害者と一般市民とのインクルーシブな学習を可能とする学習方法の開発を目指している。さらに、この様な取り組みの積み重ねによって知的障害のある彼らの高等教育の必要性が裏付けられ、広く社会に理解されて行くことを目指している⁽⁶⁾。これらの議論は、2005年度から2010年度までの日本特殊教育学会の自主シンポジウム「知的障害者の生涯発達と生涯学習保障1～6」の場で重ねられてきている⁽⁷⁾。

各地の特色あるオープンカレッジと大学講座

知的障害のある人の大学公開講座の一環として取り組まれるこの種の活動は、その後、全国的な広がりを見せた。各大学の個々の取り組みは、独自の考えを持ちながらも、①知的障害者の人権（教育権）、②発達の保障、③地域社会に対する大学の貢献の3点を共通の基本理念に掲げている⁽⁸⁾。さらに、議論されて行く中で、教育、福祉、労働等が連携して支援する「④ネットワークの構築」。障害の有無に関係なく共同で学んでいく「⑤共同での学習」が理念として挙げられてきている⁽⁹⁾。

<関西の大学におけるオープンカレッジの実践>

関西地方では、1998年度から大阪府立大学・桃山学院大学・武庫川女子大学の3つの大学が共通理念のもとで、研究室の連携によってオープンカレッジが開校されている。関西地方におけるオープンカレッジ開校の発端は以下の①スウェーデンにおいてグループホームの地域支援センターでサポーターとともにコミュニティの場に学習参加する知的障害者の事例、②大阪府立高校における普通科・総合科（2009年度では知的障害生徒自立支援コースとして園芸科なども含め府立高校9校、市立高校9校計11校で実施されている）への試験的入学開始の2つである⁽¹⁰⁾。

ア 大阪府立大学の活動

25名前後の決まったメンバー（障害の程度は問わない）が4年間継続して大学や課外で年に3～5回（日数にして計6～10日）講義を受けたり、交流会を開いたりしている（4年生の修学制度）。

講義は、グループワーク理論や障害者福祉理論などの理論型の授業やスポーツ、料理、芸術といった生活を楽しむための実践型授業など、様々な分野・領域のものを取り入れている。交流会は人とのふれあい、コミュニケーションを通して、より人間性を深め、信頼関係を築いていくことを目的とした活動を行い、季節に応じた行事やイベントを催したりする⁽¹¹⁾。

講師は、大阪府立大学や他大学、養護学校教員や福祉施設職員などに依頼し、知的障害のある人にも分かりやすい工夫をしてもらい講義を行ってもらっている。学内だけでなく学外の方にも講師をお願いすることで、オープンカレッジを広く認識してもらい、知的障害のある人に対する理解を深めてもらうことを目的としている。

オープンカレッジでは、学生の障害の程度や能力によって、学習の進度や理解に差が生まれないように学生1人に対して1人のサポーターをつけ、彼らの主体性を尊重し授業のサポートをすることで、全員が平等に学習できるように配慮している。加えてサポーターには、学生が楽しく円滑に過ごすために、学習以外のサポートや学生同士の関係づくりの促進、協力者・仲間・友人としての関係づくりなどの役割を持たせている。また、サポーターは原則的に大学生とし、学生と年齢の近い人に役割を担ってもらっている。サポートの際の上下関係が生まれないように、大学の雰囲気が出て、かつ学生が親しみやすいようにという趣旨がある⁽¹²⁾。

イ 桃山学院大学の活動

社会福祉学科の学生が中心となってソーシャルワークの学習の一環として参加、2000年（平成12）年度より「桃大オープンカレッジ」として運営している。

1回に20～25名の決まった受講、年3～5回受講生の希望に合わせて内容は決定する。受講生の自発性や自己表現の尊重、達成感の経験等を目的とした講義の方法を取り入れている。学生は、受講生に対して「先生やスタッフ、サポーターは教える人ではなく、あなたを支える人」と紹介されている^{(13) (14)}。

<各地の大学におけるオープンカレッジと大学講座の実践>

こうしたオープンカレッジの実践は、全国の大学機関や知的障害者福祉施設に影響し、大学機関と福祉施設との連携による「飛び出せ！オープンカレッジ」と称する活動が実施されている。

ア 長崎純心大学の活動

2003年（平成15）年から始まった「純心カレッジ三ツ山塾」は、1回の活動あたり約30名が受講、年2回、大学教員により音楽、スポーツ、科学、食と文化、福祉などの講座を実施している。地域で生活している知的障害のある人と学生ボランティアがイギリスのボランティア組織「One-to-One」を参考に「友人関係」を作りながら、自分たちの身近な問題や長崎の歴史や文化を学ぶための学習プログラム（「被爆60周年平和について考える」「長崎のわらべ唄」「長崎の祭り」など）を入れている^{(15) (16)}。

イ 島根大学の活動

2008（平成20年）10月に始まった「知的障害のある人のオープンカレッジin松江」は、1期生24名を受け入れ、年2回2年間で修了する。島根大学法学部福祉社会コースの学生と地域福祉関係者らによるオープンカレッジ実行委員会が企画、運営をしている。島根大学松江キャンパスで全体講義と選択講義を組み合わせる実施。経済学、心理学、栄養学、歴史学、危機管理入門、英会話、音楽、美術、体育、フラワーアレンジメント、科学、松江の歴史など幅広い勉強をする。一方で社会見学なども実施してきている。

カレッジの理念は、関西で取り組まれている①知的障害者の人権（教育権）、②発達の保障、③地域社会に対する大学の貢献の3点を基本理念に掲げており、「いつでもどこでも、そしていくつになっても、学ぶことを通して自分の生活を豊かにし、自分自身を伸ばしていくことができます」とオープンカレッジの目的を当事者に説明している。また、「好きなことが学べる」「友達を増やそう」「一人一人にサポーターがつきます」と具体的な目的も示している^{(17) (18)}。

ウ オープンカレッジin鳥取の活動

2001年（平成13）年3月から開催している。カレッジの理念は、知的障害のある人にも大学教育、生涯教育を通して「教育を受ける権利」と「個人の発達」を保障し、そのために地域に開かれた大学教育の在り方を考えていこうとする「人権保障」を大きな柱としている。運営委員には、保護者、当事者、小・中・養護学校教員、大学教員、福祉施設職員、医療関係者、団体職員など、様々な職種のメンバーが参加している。大学主催ではなく、運営委員による手弁当的な色合いが強い。

1年間を通じて科目を履修することで卒業する、入学一修了制度（通年科目制）を導入して定員を約30名として、2004年度より体験内容を重視した講座のみの開催を秋に実施し、年4回の開催となっている。各回12科目（音楽、芸術、茶道、太極拳、写真学、エアロビクス、危機管理、コミ

コミュニケーション学、経済学、介護学、健康科学、自然科学)の中から選択して受講する。

学習を進める上で受講生に対してグループ化したサポーターを割り当てている。受講生の良きパートナーとして一緒に学習に参加する友達の存在である。運営委員会の個人的なネットワークで毎回のサポーターは確保している⁽¹⁹⁾⁽²⁰⁾。

エ 青森県立保健大学の活動

2000(平成12)年に五所川原市内で青森県初の「オープンカレッジin青森」が開催された。このオープンカレッジに参加した「ドアドアらうんど青森」代表が、青森市内でも開催する必要があると考え、2002(平成14)年に「飛び出せ! オープンカレッジinあおもり」を開催した。全国で展開されているカレッジの3つの基本理念を受けて、18歳以上の知的障害を持つ人の対象に学習の場を提供することを目的に活動している。年4回、1回の活動に約30名受講。青森県立保健大学で開催している。主催は、「青森オープンカレッジ運営委員会」となり、おもに発達保障研究会(青森県立保健大学内の学生ボランティアの連絡調整を担うサークル)がオープンカレッジを企画・運営している。

受講は原則選択制で、午前に通年講座を1コマ、午後に選択講座を1コマの合計2コマを1日に受講できる。受講後修了証が手渡される。科目は、異文化コミュニケーション、健康科学、青森の歴史、芸術、スポーツ、音楽療法などの中から選択する。

介助等が必要な場合は、ボランティアのサポーターが活動をサポートする⁽²¹⁾。

オ 北海道医療大学の活動

2002(平成14)年に北海道札幌市の隣町当別町にある北海道医療大学看護福祉学部の学生、教員を中心に、札幌の保護者、関係機関の方により企画・運営され初めて開催された。全国で展開されているカレッジの3つの基本理念を受けて活動している。

年4回、北海道医療大学の施設を利用して公開講座という形式で行われている。講義内容は、普段大学生が受講しているような教養科目や専門科目(歴史学、栄養学、心理学、経済学など)実際に体を動かす体育や美術、音楽、英語などである。一日の講座を屋内講座と屋外講座に分けて選択制で受講できる。

受講生を学生サポーター(学生ボランティア)が1対1でサポートすることで、受講生の講義理解度の向上と同年代の人とかかわっていく場を提供している⁽²²⁾⁽²³⁾。

カ さっぽろオープンカレッジの活動

2005(平成17)年に、札幌市内において実行委員会を設立し、生涯教育の場を提供し、生涯を通じて各自それぞれの「人間発達」を保障することを目指して「さっぽろオープンカレッジ」を開催した。全国で展開されているカレッジの3つの基本理念を受けて「みんなで元気に楽しくいろいろなことを学ぶ小さな場」「みんなで一緒に学ぶよろこび、知る楽しさ、試す心をたいせつにする場」を目的として活動をしている。

年間3回、一回の受講生は12名程度。講座は、①統一受講講座(福祉、国際理解など)、②選択講座(美術、書道、工作など)、③特別講座(調理、音楽活動など)、④マスターコース講座(10回講義を修了した受講生が対象):平成22年度は札幌の歴史を学ぶ講座がある。統一受講講座と選択講座は、合わせて年4回、特別講座とマスターコース講座は年3回ある。

受講生が学びの場で円滑に過ごすためにサポーターをつけている。サポーターは受講生の主体性を尊重し、授業サポートするだけでなく、学習以外のサポートや仲間、友人としての関係づくりの役割もある。サポーターは原則大学生とし、大学の雰囲気が出て、受講生が親しみやすいという趣旨がある。知的に障害がある人たちの新たな可能性の発見、豊かな生活への広がりにつな

がると考えて活動している^{(24) (25)}。

まとめ

ここまで、知的障害のある人の生涯学習の保障や支援としての各地の大学講座やオープンカレッジの実践を概観してきたが、各大学の個々の取り組みは、独自の考えを持ちながらも、①知的障害者の人権（教育権）、②発達の保障、③地域社会に対する大学の貢献の3点を共通の基本理念をたいせつにしながら活動をしており、その理念を実現すべく実践を重ねていることがわかった。

特に障害の有無に関係なく共同で学んでいく「共同での学習」が重視されており当事者の方と共に学ぶサポーターがその役割を担っていた。さらに、各地の実践は大学の教員、小・中・特別支援学校教員、福祉施設、学生ボランティア等様々な職種の方々の努力によって支えられ、実践が継続されていることが分かった。今後、これらの実践が知的障害のある人の生涯学習を豊かなものとして継続していくために、教育、福祉、労働等が連携して支援する体制作りに向けての確かな「ネットワークの構築」に向けて進んでいく必要性を感じた。

静岡における大学公開講座は、今年度講座開始から10回（5年）という節目を迎えることになった。これまで、静岡ならではの講座の実践を目指して、①主体的な学び、②ユニバーサルな学びの2つを大切にしてきた。

参加者が学びたい事項を題材に取り上げ、体験活動を取り入れつつも知的好奇心をくすぐりつつ難しいことを分かりやすく自分たちなりに考える場を設けた講義を目指してきた。

そのために、毎年1回ある静岡県障害者就労研究会フォーラム本人部会の中で参加者の希望から講義内容を決めることにしている。さらに、内容決定後は、内容に適した講師の先生を選出している。そして、講師の先生方とは何回も打ち合わせをさせていただいている。視覚や聴覚にうったえる教材づくりや実験等の体験活動の導入、ワークシートの活用、小グループによる話し合いの場の確保等様々な工夫をしてきている。

講義の中では、課題解決に向けて意見交換をすることにより、お互いがお互いを理解し、共に学ぶことができるような講義も目指してきた。そのために、静岡大学教育学部特別支援教育専攻の学生に、「学びのパートナー」として共に講義に参加してもらっている。

必要最低限の支援になるように学生には予め依頼している。

これらの2点の取り組みは、今後も重視した講座にしていきたい。

そして、さらに今年度までの11回の講座を振り返ってみると、題材としては様々な分野の講義を取り上げてきてはいるが、昨年度の本人部会では、当事者の生活に密接に関係する内容であり、体験活動を取り入れた講義を要望する声が増えてきている。

全国各地の実践の中にも、実践型授業と理論型授業、屋内講座と屋外講座等の形態で、1年間や1日の講義の内容の配置や流れを工夫している実践が見られる。静岡での実践もより当事者の方のニーズに応えられるように企画・運営の段階で工夫を加えていき、知的に障害のある人たちの学びを充実した豊かなものにしていけるよう今後も努力を続けていきたい。

参考文献

- (1) 今枝史雄・菅野 敦 知的障害者の成人期における生涯学習支援について—生涯学習に関する研究の動向と実態調査から—東京学芸大学紀要 総合教育科学系Ⅱ 61：p121. 2010
- (2) 静岡県知的障害者就労研究会編 就労研究10年のあゆみ p42
- (3) 静岡大学生涯学習教育研究センター編 2008 静岡大学公開セミナー報告書 通算5号 学

- ぶって楽しい！－大学で学ぼう－ 2009 p6
- (4) 今枝史雄・菅野 敦 知的障害者の成人期における生涯学習支援について－生涯学習に関する研究の動向と実態調査から－ 東京学芸大学紀要 総合教育科学系Ⅱ 61：p123. 2010
- (5) 静岡県知的障害者就労研究会編 2007 静岡大学公開セミナー報告書 通算4号 学ぶって楽しい！－大学で学ぼう－ 2008 p6
- (6) 静岡県知的障害者就労研究会編 2008 静岡大学公開セミナー報告書 通算5号 学ぶって楽しい！－大学で学ぼう－ 2009 p6 - 7
- (7) 静岡県知的障害者就労研究会編 2008 静岡大学公開セミナー報告書 通算5号 学ぶって楽しい！－大学で学ぼう－ 2009 p7
- (8) 静岡県知的障害者就労研究会編 2008 静岡大学公開セミナー報告書 通算5号 学ぶって楽しい！－大学で学ぼう－ 2009 p6
- (9) 今枝史雄・菅野 敦 知的障害者の成人期における生涯学習支援について－生涯学習に関する研究の動向と実態調査から－ 東京学芸大学紀要 総合教育科学系Ⅱ 61：p128 2010
- (10) 今枝史雄・菅野 敦 知的障害者の成人期における生涯学習支援について－生涯学習に関する研究の動向と実態調査から－ 東京学芸大学紀要 総合教育科学系Ⅱ 61：p123. 2010
- (11) 静岡県知的障害者就労研究会編 2007 静岡大学公開セミナー報告書 通算4号 学ぶって楽しい！－大学で学ぼう－ 2008 p6
- (12) オープンカレッジとは <http://www.geocities.co.jp/collegelife-cafe/7180/concept.htm>
- (13) 静岡県知的障害者就労研究会編 2007 静岡大学公開セミナー報告書 通算4号 学ぶって楽しい！－大学で学ぼう－ 2008 p6
- (14) 編集委員が行く 障害があっても学びたい－公開講座・オープンカレッジの広がり 働く広場 2010. 12 p25
- (15) 静岡県知的障害者就労研究会編 2007 静岡大学公開セミナー報告書 通算4号 学ぶって楽しい！－大学で学ぼう－ 2008 p7
- (16) 編集委員が行く 障害があっても学びたい－公開講座・オープンカレッジの広がり 働く広場 2010. 12 p25
- (17) 編集委員が行く 障害があっても学びたい－公開講座・オープンカレッジの広がり 働く広場 2010. 12 p25
- (18) 知的に障害がある人のオープンカレッジin松江 <http://www.shimane-u.ac.jp>
- (19) 静岡県知的障害者就労研究会編 2007 静岡大学公開セミナー報告書 通算4号 学ぶって楽しい！－大学で学ぼう－ 2008 p7
- (20) オープンカレッジin鳥取 活動報告 <http://infosakyu.ne.jp/~open-college/>
- (21) オープンカレッジって？ <http://www.geocities.jp/hhk200404/opencollege.htm>
- (22) 知的障害のある人のためのオープンカレッジ <http://openn.even.ne.jp/college.htm>
- (23) 財団法人青少年交流振興協会－第12回オープンカレッジin北海道医療大学サテライト <http://www.apyc.net/about/project/pp/open/open.html>
- (24) さっぽろオープンカレッジ <http://www.eve.ne.jp/user/m-fujita/s-ocl.htm>
- (25) 編集委員が行く 障害があっても学びたい－公開講座・オープンカレッジの広がり 働く広場 2010. 12 p25

静岡大学公開セミナー 「学ぶって楽しい！－大学で学ぼう－」の11回の取り組み

渡辺 明広

（第7回全国専攻科研究集会：2010年12月12日 G-NETしが〈滋賀県近江八幡市〉で口頭発表）

2006年12月に教育基本法が改正されましたが、その第三条で生涯学習の理念が示されました。「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ（以下、略）」と書かれています。

また、国連の障がい者の権利条約（2008年5月発効）の第二四条（教育）では「障がいのある人が、差別なしに、かつ、他の者と平等に（中略）生涯教育の機会を与えられることを確保する。このため、締約国は、合理的配慮が障がいのある人に提供されることを確保する。」とあります。

このように、生涯学習についての理念や障がいをもつ人たちへの配慮が示されました。今後は、わが国においても生涯学習のための実効性のある具体的施策が期待されています。

すでに、この10年近くの間、各地の大学等において、特色ある大学公開講座やオープンカレッジなどが開催されています。これらの取り組みは、障がいのある人の権利論、運動論、学習方法・支援論など、そのスタンスはさまざまですが、共通するところは、現代社会に生きる人々の生涯学習の構築とその支援に関することです。この数年間、毎年、これら大学公開講座等の関係者が集まって、日本特殊教育学会では自主シンポジウムが開催されています。

さて、私どもの静岡大学公開セミナー「学ぶって楽しい！－大学で学ぼう－」についてですが、静岡大学生涯学習教育研究センターが主催し、静岡県障がい者就労研究会（以下、就労研という）が毎回の企画を担当しています。就労研は静岡県内の特別支援学校の教員を主とした自主的な研究・研修団体で、正会員数は50名ほどです。このセミナーの対象は、養護学校（現在の特別支援学校）等を卒業した知的障がいをもつ社会人で、各地域の青年学級に所属する人達がほとんどです。それに“学びのパートナー”として、社会人への学習支援のために学生が参加します。2005年10月から年2回、6月と10月に、静岡大学大学会館ホールで開催しています。今年2010年10月に11回目を開催しました。参加費は無料ですが、材料費などがある時は実費徴収しています。最近では社会人50人ほど、学生が30人、その他スタッフ等関係者が30人ほど、合計で100名を超えるみなさんが参加しています。

社会人は青年学級に所属していますが、静岡市、藤枝市、焼津市にそれぞれの青年学級があって、月に2回ほど、土日に活動日を設けて、その活動内容は、室内スポーツやクラブ活動などさまざまです。他に、1年の間にはクリスマス会、新年会、研修旅行、キャンプ合宿も行われていると聞きます。

「学ぶって楽しい！－大学で学ぼう」は毎回、日曜の午前中、3時間にわたって開かれます。最近の主な内容は、6人ずつ座ったテーブルごとの受講者の自己紹介から始まって、まずはアイスブレイク（20分）で社会人と学生の“学びのパートナー”間の意思疎通を図ります。それから、メインの60分の講義（スモールワーク〈小演習〉を含む）が2つあります。講義の合間に、“みんなで歌いましょう”があって、講義終了後は、社会人一人ひとりに受講証が授与されます。

「学ぶって楽しい！－大学で学ぼう」は、“主体的な学び”と“ユニバーサルな学び”を目指しています。このため、事前に受講する社会人が講義内容のリクエストをしています。これは、毎

年2月に、就労研のフォーラムを、県下の関係者200人ほどが集まって開催していますが、その本人部会で、講義内容の希望を出してもらっています。みなさんが聴きたい、知りたい、学びたい内容で、できれば、ふだんの青年学級の活動ではできない内容を見つけています。リクエストされた講義内容を見ると、社会人のみなさんの社会事象への関心の高さや、新しい情報への敏感さが感じられます。

この後、講師の人選と依頼をするのは、私たち就労研のスタッフですが、講師の先生とスタッフのコラボレーションによって教材研究のための打ち合わせを2、3回します。公開セミナー当日の授業は、“学びのパートナー”である学生が社会人主体の学習支援を行います。講師の先生には、講義の途中に10分程度のスモールワークを入れてもらっています。スモールワークは、講義を聴くだけでなく、手を動かし、“学びのパートナー”と一緒に考える活動です。社会人と学生はお互い“学びのパートナー”であることを大切にしております。なお、司会と進行は学生の代表2、3人が担当します。学生は教育学部で私が担当する科目「知的障がい者指導法」などを受講する学生で毎回、30人ぐらいが参加しています。授業の一環として実施しているのですが、参加を強制はしていません。それでも、日曜の開催にもかかわらず、9割以上の学生が受付、誘導、テーブル・イス並べなどの運営の仕事も担当して、参加しています。

さて、これまで11回実施した「学ぶって楽しい！ー大学で学ぼう」の講義の内容を紹介すると、実にバラエティに富む内容になっています。宇宙や電気、地震などを中心とした、科学の講義。美術を中心とした外国文化や海外旅行の情報。サッカーのワールド・カップ。テレビCMの話、コンビニ情報、それに現代ファッション事情。郷土史、倫理学、消費生活や食文化についての家政学。そして国際交流の話題。ヒップホップや描画（美術）といった実技が中心の授業もありました。

講師は静岡大学の教授や准教授のほか、他大学の先生にもお願いしています。大学や特別支援学校の先生だけでなく、これまで、観光会社、コンビニ会社、ファッション会社、広告会社の方々と、実に多士済済です。それぞれの専門分野の先生方や各業界のプロの方から最新情報を講義していただいています。今年の10月に開催した通算11回目には、静岡大学に來ている、オーストラリア、フィリピン、韓国からの留学生3人がゲストで来ていただき、それぞれの国の文化や習慣、それに静岡に來ての感想の話が聴けました。受講生には大変好評でした。

それで、「学ぶって楽しい！ー大学で学ぼう」に参加した、“学びのパートナー”の大学生に、毎回、事後アンケートを行い、社会人と一緒に受講しての感想等を聞いていますので、次に、少し紹介します。

Q1「あなた自身は講義を聞いたり、実技をしたりして、全体としては興味や関心が持てましたか？」

「大変持てた」、「かなり持てた」、「ふつう」、「あまり持てなかった」、「ほとんど持てなかった」の5段階評定による回答は、毎回、「大変持てた」と「かなり持てた」が多く、特に、最近の3回はこの2つの段階で90%前後を占めます。「あまり持てなかった」と「ほとんど持てなかった」はまったくありません。学生にとっても、興味や関心が持てる講義の内容であって、満足度が高いことが伺えます。

Q2「あなたは、受講した人達が知的障がいのある、なしにかかわらず、講義・実技中のスモールワークに全体としては、一緒に取り組めたと思いますか？」

各回で多少の凸凹はありますが、最近「大変持てた」「かなり持てた」が多く、80%から90%台を占めます。Q1の回答と合わせて、“ユニバーサルな学び”が実現されているのではないかと、思われます。

Q3「あなたは、知的障がいがある人にどんな場面で、どんな援助をしましたか？」

自由記述による回答をKJ法でまとめましたが、多い順に、＜教える、説明する、アドバイスする＞、＜例を挙げる、手本を見せる＞、＜いっしょに作業をする＞、＜問いかける・声かけをする＞、＜質問に答える＞、＜質問する＞、＜（講師の説明を）繰り返す＞です。公開セミナーの前の私の担当する授業で、学生には、社会人の求めに応じてのお手伝いや支援が望ましい、と事前説明をしてありますので、学生は社会人の様子を伺いながら、可能な対応をしていることが伺えます。

Q4「あなたは、具体的な援助をする時に、どんな配慮をしましたか？」

Q3と同様に、同じ方法でまとめましたが、多い順に、＜敬語をきちんと使い分けた＞、＜導くように言葉をかけた＞、＜笑顔で楽しむ＞、＜繰り返してゆっくり言う＞、＜ゆっくり分かりやすく話す＞、＜たくさん話しかけ、しっかり聞く＞、＜手伝いすぎないようにした＞です。和やかで、フレンドリーな中に、社会人の主体性を尊重した関わりが感じられます。

では、パワーポイントの写真によって、「学ぶって楽しい！ー大学で学ぼう」の光景を紹介します。

- ・まず、会場の静岡大学大学会館ホールの全景です。テーブルが並び、百人を超える参加者が入ると、かなり満員の感じになります。
- ・開始時の自己紹介の場面です。1グループは6人で、社会人4人に学生2人ほどです。
- ・講義では、大学会館のステージ上のスクリーンに、講師作成のパワーポイントが映し出されます。
- ・毎回のセミナーの始まりに、ミニ講義（演習）のワンポイント心理学（アイスブレイク）を行います。初対面の社会人と学生も緊張をときほぐし、リラックスして講義を受けられるように、という配慮がされています。
- ・これは、アイスブレイクのワークのプリント。
- ・そして、講義中のスモールワークの様子。
- ・講師の質問に答える社会人。みなさん、大変熱心です。
- ・これは、今年の第9回「60分ヒップホップマスター」の場面。青年6、7人が特別出演でダンスのデモンストレーションです。初めは圧倒されて、哑然とした？！様子で見つめる社会人と学生たち。
- ・やがて、フロアの社会人と学生たちも楽しそうにダンスを始めました。
- ・これは、今年の第10回の「描くことの魅力を探ろうー色やかたちを見つめて」。静岡大学教育学部の美術の先生の指導を受けて、花や果物を観察して、水彩画を描きました。
- ・毎回、司会、進行役は学生の代表がしています。
- ・2つの講義の合間には、“みんなで歌いましょう”。キーボード演奏や指揮は学生が担当しています。「世界に一つだけの花」などがよく歌われます。
- ・これは今年の10月17日に開催した時の「世界のひと『こんにちは！』」のスモールワークのシートです。
- ・最後に、静岡大学の学長名で修了証が一人ひとりに授与されます。なお、今年6月に実施した10回目では、10回連続して参加した6人の社会人の方々に特別表彰をいたしました。

最後に、「学ぶって楽しい！－大学で学ぼう」の今後の課題をいくつか挙げます。

- ・この公開セミナーで学んだことが、ふだんのいろいろな場面で活かせるように、講師と私達スタッフの教材研究をさらに深めること。
- ・「学ぶって楽しい！－大学で学ぼう」と青年学級で行われている学びの活動とのつながりを深めること。
- ・「学ぶって楽しい！－大学で学ぼう」で学んだことの成果と発展を確かめること。
- ・社会人と学生との“ユニバーサルな学び”をさらに追求すること、です。

以上です。きょうはありがとうございました。

...

静岡大学公開セミナー

「学ばって楽しい！ー大学で学ぼうー」の
11回の取り組み

第7回全国専攻科研究集会
2010.12.12 G-NETしが

教育基本法 2006.12.22 改正

第三条 （生涯学習の理念）

国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図らなければならない。

国連・障がい者の権利条約 2008.5.3発効

第二十四条（教育）5

締約国は、障がいのある人が、差別なしに、かつ、他の者と平等に高等教育一般、職業訓練、成人教育及び生涯学習の機会を与えられることを確保する。このため、締約国は、合理的配慮が障がいのある人に提供されることを確保する。

各地における、特色ある大学公開講座やオープンカレッジなど ①

- ・東京学芸大学公開講座「自分を知り、社会を学ぶ」1995～2003
 - ・東京学芸大学公開講座「いっしょに学び、ともに生きる」2004～
 - ・大阪府立大学社会福祉学部「オープンカレッジ」1998～
 - ・武庫川女子大学「オープンカレッジ」
 - ・桃山学院大学「オープンカレッジ」（4年制の修学制度）
 - ・「オープンカレッジin鳥取」2001～（入学ー修了制度〈通年科目制〉）
 - ・長崎純心大学「純心カレッジ三ツ山塾」2003～
 - ・神戸大学津田研究室「大学で自分の世界を広げよう」2003～
- etc.

各地における、特色ある大学公開講座やオープンカレッジなど ②

- ・ 権利論、運動論、学習方法・支援論 etc.

現代社会に生きる人々の生涯学習の方法、およびその支援

- ・ 各地の大学公開講座等の関係者が集まって、日本特殊教育学会で自主シンポジウムの開催

静岡大学公開セミナー 「学ばって楽しい！ー大学で学ぼうー」

- 主催 : 静岡大学生涯学習教育研究センター
- 企画 : 静岡県障がい者就労研究会
(1996年設立。静岡県内の特別支援学校の教員を主とした自主的な研究・研修団体。
正会員数: 50名、賛助会員数: 20名)
- 対象 : 知的障がいをもつ社会人
|
地域の 青年学級 に所属する人が多い

“学びのパートナー”として、支援の学生が参加
- 開催 : 2005年10月から年2回(6月、10月)
- 参加費 : 無料(ただし、材料費があるときは徴収)

青年学級の活動内容＜年間＞ （静岡市内のA青年学級の例）

- ・ 体操
- ・ 室内スポーツ
- ・ クラブ活動（料理、ワープロ、ゲームなど趣味の活動）
- ・ 防災教室（年1回）
- ・ 工芸教室（年2回）
- ・ 交流スポーツ大会参加（年1回）
- ・ 保護者合同ウォーキング（年1回）
- ・ クリスマス会、新年の会
- ・ 研修旅行（1泊2日、年1回）
- ・ キャンプ合宿（1泊2日、年1回） など
- * 活動日（土曜や日曜日に、月に2回ほど）
- * 各回の参加人数50名ほど（他に、スタッフ・学生ボランティアは7、8名）

「学ぶって楽しい！－大学で学ぼう」の 最近の毎回の内容

《日曜日 9:15～12:15》

- 班別（6人）で自己紹介など（5分）
- アイスブレイク（20分）
- 講義 & スモールワーク（60分）
（休憩）
- “♪ みんなで歌いましょう♪”（5分）
- 講義 & スモールワーク（60分）
- 受講証授与

「学ぶって楽しい！－大学で学ぼう」の スタイル

○ 主体的な学びに & ユニバーサルな学びに

- ・ 社会人が講義内容の希望を出す
（青年学級では活動内容としない、あるいは、できない活動）
- ・ 講師と企画者とのコラボレーションによる教材研究
- ・ “学びのパートナー”（学生）による、本人主体の支援（社会人と学生は“学びのパートナー”）
- ・ 講義の中に スモールワーク の設定
- ・ “学びのパートナー”は一緒に スモールワーク に取り組む
- ・ 進行役（司会）は学生

* 学生は科目「知的障がい者指導法」の受講者（授業の一環として実施）など

これまでの 「学ぶって楽しい！－大学で学ぼう－」 ①

回	講義・演習 題目	講師	参加者数
第1回	「科学って面白いーシャボン玉って超面白いー」 科学	民間研究所主宰 （元高校校長）	社会人 41 大学生 24 その他 24 計 89人
	「人間が創る楽しさをとりまく世界」 美術、外国文化	大学教授	
第2回	「駿府城をもっとよく知ろう」 郷土史	大学教授	社会人 49 大学生 35 その他 35 計 119人
	「隣の国に行ってみよう ～ごきげんな韓国済州島～」 海外旅行の情報	観光会社営業係長	

これまでの 「学ぶって楽しい！－大学で学ぼう－」 ②

回	講義・演習 題目	講師	参加者数
第3回	「宇宙人はいるか？ 宇宙の不思議」 宇宙の不思議	前県教育センター教授 （元高校校長）	社会人 46 大学生 25 その他 31 計 102人
	「やっぱりサッカーは最高！」 スポーツ	大学教授	
第4回	「アイスブレイクからはじめよう！～心理の世界へようこそ～」 心理学 リーダー研修	特別支援学校教諭	社会人 46 大学生 32 その他 30 計 108人
	「地震はなぜ起こる？」 地震と対応	大学教授	

これまでの 「学ぶって楽しい！－大学で学ぼう－」 ③

回	講義・演習 題目	講師	参加者数
第5回	「コンビニの秘密」 コンビニ 消費生活	コンビニ会社ソーシ ンマネージャー	社会人 44 大学生 30 その他 35 計 109人
	「モーターってなんだ？ ～ペットボトルモーターをつくろう！～」 電気	大学教授 特別支援学校教諭	
第6回	「不思議感動！ 科学する心とは！？」 科学	大学教授	社会人 51 大学生 34 その他 38 計 123人
	「現代ファッション事情 ～流行は誰が考えるの？ どうやって決まるの？～」 流行 ファッション	ファッション会社ブ ランド開発部長	

これまでの
「学ばって楽しい！—大学で学ぼう—」 ④

回	講義・演習 題目	講師	参加 者数
第7回	「消費生活を考えてみよう」 家政学 消費生活	大学准教授	社会人 47 大学生 43 その他 43 計 133人
	「音楽のしくみを知ろう ～うたのはじめはドレミ ～ 音楽	大学教授	
第8回	「アイスブレイク～学びのなかま ～」 心理学 リーガル精神	特別支援学校教諭	
	「人はなぜ悪いことをする のか？」 倫理学	大学教授	社会人 51 大学生 23 その他 33 計 107人
	「世界へ羽ばたけ！富士 山静岡空港」 外国旅行	県空港部職員	

これまでの
「学ばって楽しい！—大学で学ぼう—」 ⑤

回	講義・演習 題目	講師	参加 者数
第9回	「アイスブレイク～学びのなかま ～」 心理学 リーガル精神	特別支援学校教諭	
	「TVCMっておもしろ い」 CM	広告会社支社クリ エーティブ部主務	社会人 53 大学生 36 その他 34 計 123人
	「60分ヒップホップマス ター」 ヒップホップ	特別支援学校教諭	
第10回	「アイスブレイク～学びのなかま ～」 心理学 リーガル精神	特別支援学校教諭	
	「描くことの魅力を探ろ う—色やかたちを見てめ て」 美術 描画	大学准教授	社会人 52 大学生 35 その他 40 計 127人

これまでの
「学ばって楽しい！—大学で学ぼう—」 ⑥

回	講義・演習 題目	講師	参加 者数
第11回	「アイスブレイク～学びのなかま ～」 心理学 リーガル精神	特別支援学校教諭	
	「日本の食文化を知ろ う！」 家政学 食文化	大学教授	社会人 46 大学生 36 その他 34 計 116人
	「世界のひとと『こんにち は！』」 国際交流 世界の文化 や習慣	大学准教授	
	(2005年10月 ～2010年10月現在)		

「学ばって楽しい！—大学で学ぼう—」に参加した
大学生（“学びのパートナー”）の報告・感想など

～ 毎回の事後アンケート（結果） ～

Q1. あなた自身は講義を聞いたり、実技をしたり
して、全体としては興味や関心が持てましたか？

	5 大変 持てた	4 かなり 持てた	3 ふつう	2 あまり 持てな かった	1 ほとんど 持てな かった
第1回	11%	73%	16%	0%	0%
第2回	6%	60%	28%	6%	0%
第3回	5%	25%	65%	5%	0%
第4回	3%	67%	27%	3%	0%
第5回	19%	50%	27%	4%	0%
第6回	18%	50%	32%	0%	0%

Q1. あなた自身は講義を聞いたり、実技をしたり
して、全体としては興味や関心が持てましたか？

	5 大変 持てた	4 かなり 持てた	3 ふつう	2 あまり 持てな かった	1 ほとんど 持てな かった
第7回	25%	59%	16%	0%	0%
第8回	5%	75%	20%	0%	0%
第9回	22%	75%	3%	0%	0%
第10回	36%	54%	11%	0%	0%
第11回	27%	61%	12%	0%	0%

Q2. あなたは、受講した人達が知的障がいのある、なしにかかわらず、講義・実技中のスモールワークに全体としては、一緒に取り組めたと思いますか？

	5 大変 取り組 めた	4 かなり 取り組 めた	3 ふつう	2 あまり 取り組 めな かった	1 ほとん ど取 り組 めな かった	0 何とも 言えな い
第1回	11%	31%	32%	21%	0%	5%
第2回	17%	44%	22%	0%	0%	17%
第3回	35%	30%	20%	15%	0%	0%
第4回	17%	54%	27%	3%	0%	0%
第5回	12%	54%	31%	4%	0%	0%
第6回	21%	71%	6%	3%	0%	0%

Q2. あなたは、受講した人達が知的障がいのある、なしにかかわらず、講義・実技中のグループワークに全体としては、一緒に取り組めたと思いますか？

	5 大変 取り組 めた	4 かなり 取り組 めた	3 ふつう	2 あまり 取り組 めな かった	1 ほとん ど取 り組 めな かった	0 何とも 言えな い
第7回	19%	44%	25%	9%	0%	3%
第8回	2%	65%	25%	0%	0%	0%
第9回	25%	47%	22%	3%	0%	3%
第10回	32%	54%	11%	4%	0%	0%
第11回	36%	45%	9%	6%	0%	3%

Q3 あなたは、知的障がいがある人にどんな場面で、どんな援助をしましたか？

“学びのパートナー”による

具体的な援助の内容や方法 (多い順に)

- ・ <教える、説明する、アドバイスする>
- ・ <例を挙げる、手本を見せる>
- ・ <いっしょに作業をする>
- ・ <問いかける・声かけをする>
- ・ <質問に答える>
- ・ <質問をする>
- ・ <(講師の説明を)繰り返す>
- ・ なし

(以上、学生の自由記述による回答をKJ法でまとめる)

— 2009 静岡大学公開セミナー報告書から

Q4 あなたは、具体的な援助をする時に、どんな配慮をしましたか？

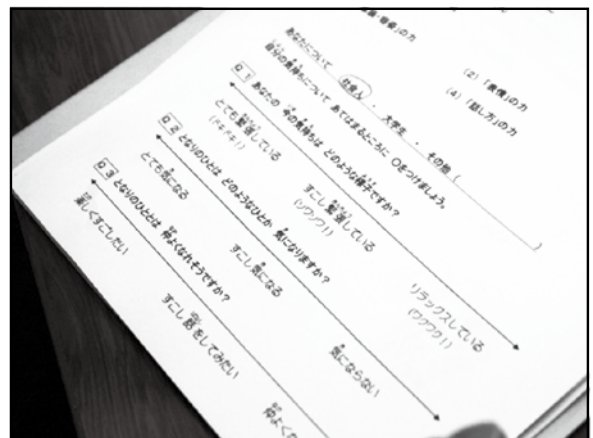
学びのパートナー”による援助の様子 (多い順に)

- ・ <敬語をきちんと使い分けた>
- ・ <導くように言葉をかけた>
- ・ <笑顔で楽しむ>
- ・ <繰り返してゆっくり言う>
- ・ <ゆっくり分かりやすく話す>
- ・ <たくさん話しかけ、しっかり聞く>
- ・ <手伝いすぎないようにした>

(以上、学生の自由記述による回答をKJ法でまとめる)

— 2009年静岡大学公開セミナー報告書から







スモールワークの際のシート

2010年10月4日（日曜日） 「大学で学ぼう」
せかいひと
世界の人と「こんにちは！」
栗野香子（あんのきょうこ）

Q1

「タタリ」：ねえねえ、
世界にはいくつ国が
あるか知ってる？
スザンヌ：_____じゃない？

Q2 面積の広い国 ベスト10！
ヒント！！！！ 流の国の平から読んでみよう。

中国	ロシア	ブラジル	アメリカ合衆国
オーストラリア	カナダ		

1位 _____

2位 _____

3位 _____

4位 _____

5位 _____

6位 _____

7位 インド

8位 アルゼンチン

9位 カザフスタン

10位 _____

せかいの人と「こんにちは！」

日本語

英語

中国語

韓国語

ドイツ語

ポルトガル語
(ブラジル、ポルトガル)

フランス語

タガログ語
(フィリピン)

- ・ ポア タルデ！
- ・ アンニョンハセヨ！
- ・ グーテンターク！
- ・ こんにちは！
- ・ ハロー！
- ・ ボンジュール（ル）！
- ・ クムスタ！
- ・ ニイハオ！



課題

- ・学びが活きる、活かせるように、講師とスタッフの教材研究を深めること。
- ・青年学級での学びの活動とのつながりを深めること。
- ・学びの成果と発展を確かめること。
- ・さらに、“ユニバーサルな学び”を追究すること。

ご清聴ありがとうございました

静岡大学大学院教育学研究科
渡辺 明広
TEL・FAX 054-238-4246
E-mail eawatan@ipc.shizuoka.ac.jp

【演習】

アイスブレイク～学びのなかま～

大畑 智里

【演習のまとめ】

アイスブレイク～学びのなかま～

大畑 智里

演習の設定にあたって

本講座では受講生だけでなく、学びのパートナーである大学生が多数参加している。講座の当日、受講生と学びのパートナーは、広い講義室の中で初対面の仲間と共に講義を受け、活動していくことは非常に緊張度の高いものである。そこで、この演習を講義前に設定することで、受講生同士、または受講生とパートナーの間に良好な関係が早くに築かれ、その後の講義での積極的な学びにより良い効果が期待されるであろうと考えた。

<重視した点>

- ①受講生同士、受講生と学びのパートナーの関係づくりの基礎になるように、活動的なエクササイズを取り入れること。
- ②日々の対人関係に悩みも多い受講生にむけて、人間関係づくりの基礎となるような心理学的な知識を学ぶ機会とすること。
- ③スライドや資料などの視覚的な教材を取り入れ、理解の促進と定着を図ること。

【演習1（6月）の内容】

○アイスブレイク エクササイズ「アイコンタクトレッスン」

講座の冒頭、参加者同士の関係づくりのためにアイスブレイクを行う。今回はアイコンタクトの効果についてふれながら「アイコンタクトレッスン」というエクササイズを行った。

人の出会いにおいては、第一印象がとても大切なものである。有名な“メラビアンの法則”にもあるように言語情報、聴覚情報、視覚情報の3つが人の第一印象を形作っている。特に、視覚情報の持つ価値は高く、中でも“表情”は大きな要素である。

人は互いに視線を合わせると思わず笑みがこぼれるもの・・・「アイコンタクトレッスン」の中で、隣にいる参加者同士が視線を合わせた時には会場が一時シーンと沈黙するが、5秒・・・10秒・・・しだいにクスクスと笑い声があちらこちらから聞こえる。相手の目を見て話ができることによって人は思わず笑顔になり、その人との心の距離が縮まることを、このエクササイズを通して実感できたようだった。

○ワンポイント心理学

第一印象の一つの要素として、“服装と色の関係”について考えていった。色彩の心理学においても、色の好みと個人の性格はとても近い関係にあり、心理的なメッセージがふくまれることがあるという。色が持つ力は非常に不思議なもので、その日の体調や気分をあらわしていたり、受け手にもそういった印象を与えたりすることもある。

「赤い色は元気や活気」「青い色は静かや誠実」・・・その日の服の色と、色の持つ意味を照らし合わせ、色の持つ不思議な力について考えることができた。

○演習のまとめ

参加者の中には初対面の相手との関係の築き方や、職場の人間関係に悩んでいる人も多い。対人関係においては、言葉によるコミュニケーションがすべてを決定するものではなく、表情やし

ぐさ、服装等、多くの要素が印象を形作っていることを、受講生も知ることができた。

【演習2（10月）の内容】

○ワンポイント心理学

“人は誰でも誰かと一緒にいたい”・・・マクレーランドの「親和欲求」について考えた。マクレーランドは人が何かをしたいと言う欲求を3つに分けたが、その内の1つに他者の存在を求める親和欲求というものがある。この欲求の特徴として、不安や心配なことがある時には強くなり、男性よりも女性の方が強い傾向がある。こうした欲求＝気持ちについては受講生もとても興味深いようだった。こうした気持ちは人として当然なことであるからこそ、社会生活の中で、友達や仲間、家族が大切な存在となる。人が人として豊かに生きていくために、誰かと共に充実した生活を送ることの大切さを感じることができた。

○アイスブレイク エクササイズ「笑顔の練習」

6月の「アイコンタクトレッスン」にもつながる笑顔のエクササイズである。相手に視線を合わせて素敵な笑顔を作るためには、言葉の後に「無言の“イ”」を意識したい。“イ”の口の形は、笑顔の基本の形である。「こんにちは！（イ）」・・・と、会場中から元気な声と笑顔が見られていた。

○ワンポイント心理学

笑顔の練習をしたところで、改めて笑顔の持つ意味、効果について考えた。

人は「ミラーニューロン」を持っている。相手の動作を鏡のようにうつし取り、表現する働きをするもの。もらい泣きやあくびがうつると言ったことも、不思議なものでこのミラーニューロンの仕業であることにふれた。ゆえに、素敵な笑顔を作れると、ミラーニューロンの働きにも助けられ、相手に笑顔がうつっていく。生活の中で、まずは自分自身が明るい笑顔で過ごせることによって、周囲の人の心も明るくするというを確認できた。

○アイスブレイク エクササイズ「アウチでよろしく」

自己紹介ワークとして「アウチでよろしく」を行う。会場を自由に歩き、出会った参加者同士が指と指でタッチ、そして、笑顔で自己紹介をする。ワークが開始されると、会場中から“アウチ！”という大きな声、そして、練習した素敵な笑顔があふれるようになっていった。

○演習のまとめ

今回は6月からの連続のテーマで行った。アイコンタクトができると自然に笑みがこぼれる、素敵な笑顔ができると相手も笑顔になる・・・人との関係づくりの基礎を、実体験を持って感じることができただろう。初対面の相手とも笑顔でかわれる、豊かな社会生活を送ってほしいと思う。



おわりに・・・

対人関係の基礎的な知識や力をテーマに、演習を通して考えたことにより、受講生同士、受講生と学びのパートナーとの間に早い段階からの良好なかかわりが見られるようになった。実際に参加した学びのパートナーからも次のような感想をいただいている。

- ・初対面の人と会うとき、どうしても緊張してしまうので見つめるだけで慣れることができることが助かる。
- ・コミュニケーションのとり方のようなアイコンタクトはすごい興味や関心を持った。
- ・アイスブレイクでいろいろな人と会話ができたので良かった。
- ・アイスブレイクで自己紹介をしたことによって、笑顔がたくさん増えたように思う。

今後も、社会生活を送る上で役立つ知識にふれながら、よりよいその場の学びにも繋がる楽しい時間の在り方について考えていきたい。

【講義①】

描くことの魅力を探ろう
～色やかたちを見つめて～

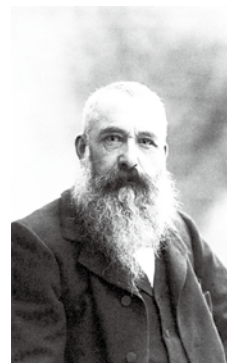
高橋 智子

えが 描くことの魅力を探ろう
いろ 一色やかたちを見つめてー

静岡大学 教育学部
高橋智子

学ぶってたのしい！ー大学で学ぼう
2010/6/20

クロード・モネ
Claude Monet
1840-1926
フランス



1899年、ナダール撮影、Wikipediaより

フランス
ルーアン大聖堂



①

②

③

ロンドン
国会議事堂

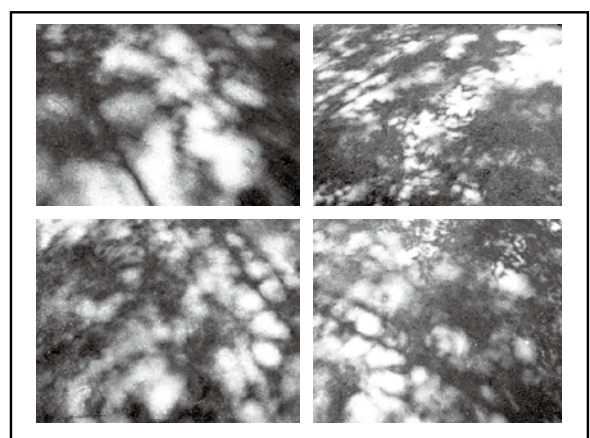
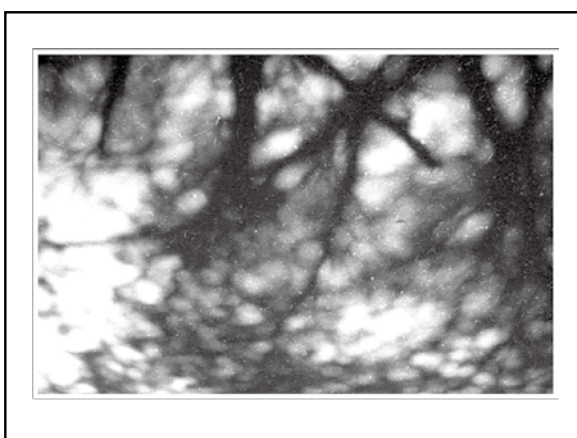




ことば
モネの言葉

「すべては千変万化する、石でさえも」
千変万化(せんぺんぱんか)・・・さまざまに^{へんか}変化すること。

これは何だろう？



私たちの身のまわりには、
様々なものが存在しています。
そして私たちは、普段色々なもの
を見つめています、
実は……。

今日描くモチーフは、
身近な植物

今日の流れ

- ① えんぴつでスケッチしよう(60分)
- ② 水彩絵の具で色をぬろう(30分)
- ③ みんなの作品を鑑賞しよう(20分)
- ④ 片付け(10分)

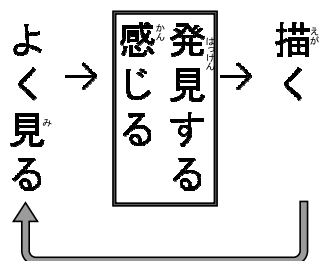
※途中で休憩を10分間とります

スケッチとは

対象をよく観察し、発見した
ことや感じたことを自分らし
く表現することです。

対象をそっくりに描くことが目的ではありません

身近な植物を…



えんぴつについて知ろう！

- ① えんぴつはいつ誕生したの？
えんぴつの材料は何だろう？

<答え>
()年代、イギリスで発見されまし
た。えんぴつの材料は、()です。

えんぴつについて知ろう！

②日本で一番古いえんぴつはどこにあるだろう？

<答え>

()県
久能山東照宮 東照宮博物館

えんぴつについて知ろう！

③えんぴつの硬さは何種類あるの？

<答え>

日本では、()種類です。

えんぴつについて知ろう！

④1本のえんぴつでどのくらい書けるの？

<答え>

約()

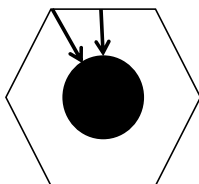
えんぴつについて知ろう！

⑤なぜえんぴつの軸は六角形のものが多いの？

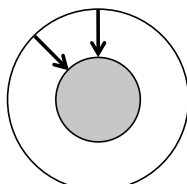
<答え>

()ない、()やすいから

えんぴつ



色えんぴつ



えんぴつについて知ろう！

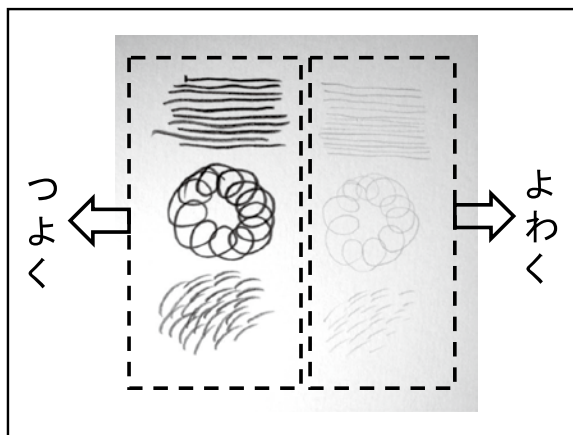
⑥えんぴつの寿命は？

<答え>

半永久的に使用可能

えんぴつの魅力

えんぴつは芯の先に加える力を変えたり、線を重ねたりするだけで、様々な明暗を持つ線を表現できます。表現したいと思ったかたちを自由に表現でき、ストレートに自分の気持ちや力の強弱、スピードなどを伝えることのできる画材です。



えんぴつを使って、 色々な線を描いてみよう！

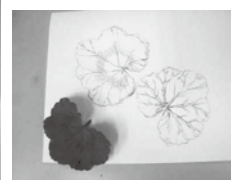
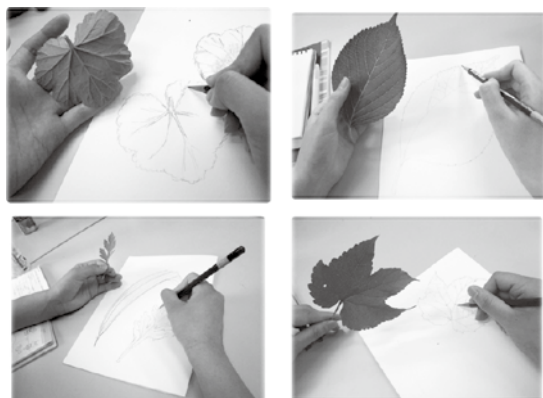


プリントのお手本を参考にして、色々な線を描いてみましょう

植物を描こう！

<スケッチのポイント>

- 好きな植物を選ぼう
- 手でさわってみよう
- においをかいでみよう
- じっくり見つめよう
- 大きく描こう
- 色々な発見をしよう



1枚の画用紙に
植物をいくつも
描いてよいです。

スケッチしよう！

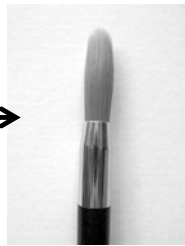
休憩
(きゅうけい)
10分間

※休憩中に水入れに水を入れてください。

水彩絵の具で色をぬろう！

＜準備するもの＞

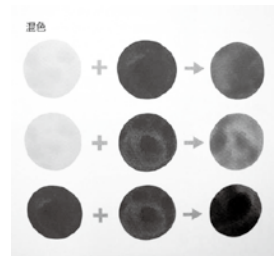
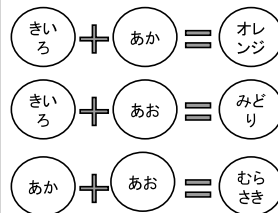
- ・水彩絵の具
- ・ふで
- ・パレット
- ・水入れ
- ・ぞうきん



まる
ふで

水彩絵の具で色をぬろう！

①色をよく見てつくみましょう



水彩絵の具で色をぬろう！

- ②水はたっぷりつかいましょう
- ③明るい色からぬりましょう



えんぴつで描いた
せんがみえるくら
いに絵の具を水
でときます。

水彩絵の具で色をぬろう！

④色を重ねるときは、先にぬった場所がかわいてからぬりましょう



いろ
色をぬろう！



さくひん かんしょう
作品を鑑賞しよう！

美術館紹介

- ・国立新美術館「オルセー美術館展」
(8月16日まで)
- ・MOA美術館
- ・ポーラ美術館
- ・静岡県立美術館

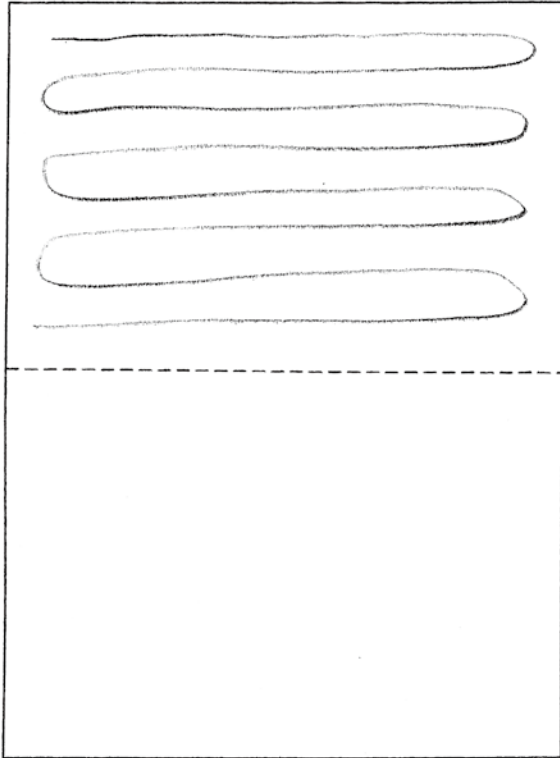
など

参考及び引用文献

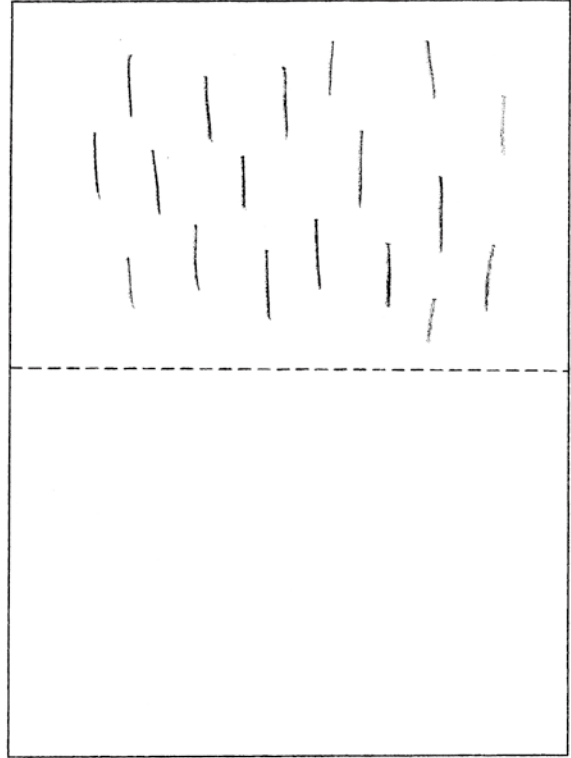
- ・「美術資料 つくる・見る・学ぶ 美術のきほん」,
日本文教出版
- ・「印象派美術館」, 小学館
- ・「週刊グレート・アーティストNO.3」, 同朋舎
- ・「アート・ギャラリー 現代世界の美術 1 モネ
MONET」, 集英社

えんぴつ^{つか}を使って、色々な線^{いろいろ せん えがい}を描いてみよう！

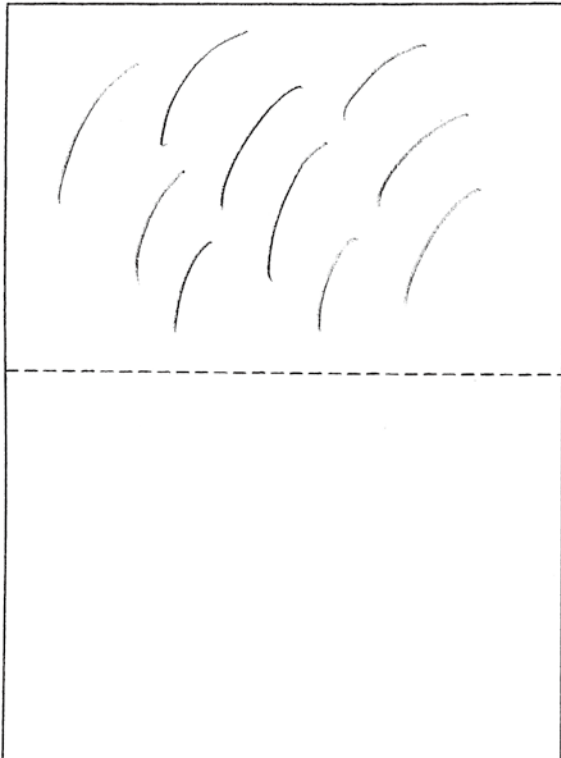
① ゆっくりながく



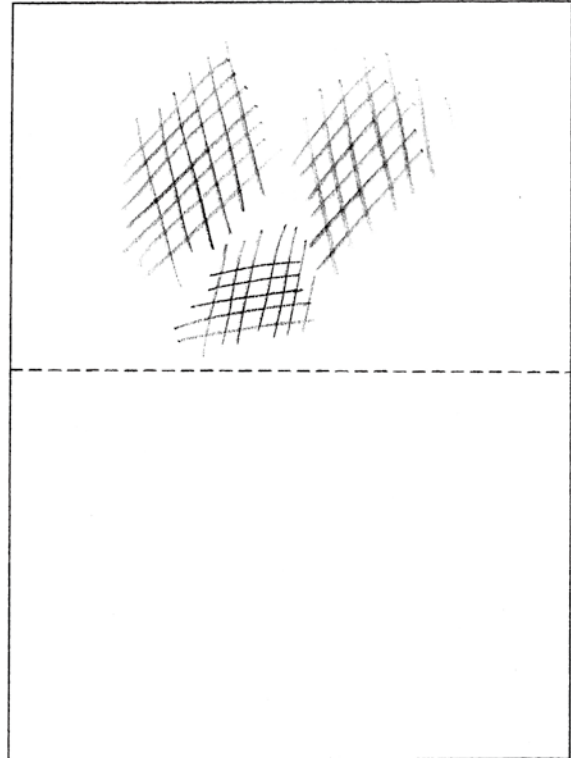
② ゆっくりみじかく



③ ゆっくりまるく



④ ^{せん}線をかさねる



〔講義のまとめ〕

描くことの魅力を探ろう～色やかたちを見つめて～

五條由美子

講義を設定するにあたって

今回で「大学で学ぼう」も第10回を迎えた。そこで、記念として、今までとは違った形での講義が何かできないだろうか、と考えた。大学を飛び出してのフィールドワークという案も挙がったが、受講生のみなさん一人ひとりが、作品を作って残せたら記念になる、と考えて、美術で講義と実技を行った。講師には静岡大学教育学部で、美術教育について研究されている高橋智子先生をお願いした。先生と相談して、自然にあるものをモチーフにしたスケッチや水彩絵の具を使っての彩色を行い、作品を仕上げることになった。できた作品は、2011年2月の就労フォーラムで展示した。

講義の流れと内容

1 クロード・モネの作品より

モネはフランスのルーアン大聖堂やロンドンの国会議事堂を何十枚も描いている。同じものを対象にしても、時間や天候によって描き分けている。モネは「すべては千変万化する、石でさえも」という言葉を残している。

スケッチとは、対象をよく観察し、発見したことや感じたことを自分らしく表現することである。大切なのは、対象物をよく見ること。普段見慣れているもの、何気なく見ているものをあらためて見つめることである。

2 えんぴつの魅力

えんぴつは、芯の先に加える力を変えたり、線を重ねたりするだけで、さまざまな線を表現できる。表現したいと思ったかたちを自由に表現でき、ストレートに自分の気持ちや力の強弱、スピードなどを伝えることができる。

えんしゅう

えんぴつを使って、いろいろな線を描く。



3 植物を描こう（実技）

テーブルの上には、さまざまな植物やりんごなどの果物が置かれている。

(1) スケッチをする

好きな植物を選び、手でさわる、においをかぐ、じっくり見つめる、などのポイントを押さえ、えんぴつでスケッチする。

(2) 色をぬる

よく見て色を作る、水をたっぷり使う、明るい色からぬる、色を重ねるときは、先にぬった場所が乾いてからぬる、などのポイントを押さえて、水彩絵の具で色をぬる。

(3) 鑑賞する

「美しい」と思えただろうか。新しい発見ができただろうか。今日の講座は、描くことの楽しさを感じてもらう講座。身近に美しいものがあるかもしれない。見つけてほしい。

学びのパートナーの感想

今回の公開セミナーでは、様々な方と交流することができました。小中学生とは違い、自分よりも年齢が上の方と接するということで緊張や不安がありました。アイスブレイクやPPTによる先生方の講演のなかで参加者の様子を伺いながら、後の制作活動では対話につながる手だてをつかむことができたと思います。一人ひとり異なる理解度や進度のなかでも、交流しながら楽しんで制作を進める様子が伺え、とても貴重な体験になりました。(教育学部3年生)

今回公開講座に参加させていただいて一番印象的だったことは、参加者の方々の学びに対する意欲が大変高かったことです。制作前の講義では、参加者全員が集中して話を傾聴されていましたし、モチーフを選んでスケッチをするときには、「花の真ん中を描きたいんだけど、どうしたら上手く描けますか？」といった質問を積極的にされていました。アドバイスをすると、しばらくして「描けました！」と嬉しそうに作品を見せてくださり、私も一緒になって描けたことの喜びを共有することができました。(教育学部4年生)

受講生の皆さんと、身近な植物の特徴や美しさを一緒に見つけて描く時間は、とても楽しかったです。私の参加させて頂いた班では、葉のギザギザした形を丁寧に描き、手が疲れてしまう方がいらっしやるくらい皆さん一生懸命でした。(大学院1年生)

講師の高橋智子先生から

今回の公開セミナーでは、鉛筆と水彩絵の具を用いて身近な自然物を描くことに取り組みました。準備したモチーフは、私たちの生活の中で簡単に手に入るものですが、普段とは異なった視点で近づいてじっくりと見つめることを通して、質感や量感、色や形、季節感など様々な発見が参加者の数だけ生まれました。講座の中でもっとも印象に残っていることは、学びに対する参加者の積極的な姿でした。「学びたい」「描いてみたい」などの思いを、講座の様々な場面で感じることができました。話を真剣に聞く姿、質問をする姿、制作に没頭している姿など、その姿には参加者の学びに対する興味・関心・意欲が強く反映されていたと思います。また、セミナーでは、参加者^{もの}ともの(モチーフ)や他の参加者、さらに学びのパートナーなどとの間に様々な「関わり」が生まれていました。このセミナーを通して育んだ参加者の^{もの}や人との「関わり」が、今後の参加者自身の生活に反映されていくことを願っています。セミナー当日に配付した封筒の中には、お土産としてはがき大の白い画用紙を一枚同封していました。参加者が自分の生活の中で、この講座で育んだ^{もの}との「関わり」を色や形でこの画用紙に表現し、その作品を人と共有することで、新たな人との「関わり」を育むきっかけになればと思います。私自身、参加者の熱意や笑顔に接し、とても楽しい時間を過ごす事ができました。私の中にも、^{もの}と人との新たな「関わり」が生まれた一日でした。

【講義②】

日本の食文化を知ろう！

新井 映子



日本の食文化を知ろう！

静岡県立大学 食品栄養科学部
新井映子

1. 日本人の食事の変化



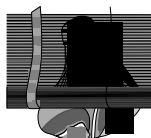
何時代の人かな？



縄文時代(縄文人)



弥生時代(卑弥呼)



平安時代(紫式部)



鎌倉時代(源頼朝)



江戸時代(徳川家康)



大正時代(野口英世)



現代

「縄文時代」の暮らし



縄文人の住居

竪穴住居
(たてあなじゅうきょ)



縄文人の生活



「縄文時代」の遺跡から出てきた食べ物



鯛(たい)の骨



貝のから



おにぐるみ

考えてみよう? ①

「縄文時代」のひとは、どんな料理を食べていたでしょう?

考えてみよう? ①

「縄文時代」のひとは、どんな料理を食べていたでしょう?

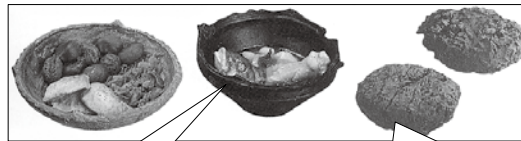
焼いたどんぐり

焼いた肉

焼いた魚

「縄文時代」の料理

木の実・干した貝 山海汁 縄文パン

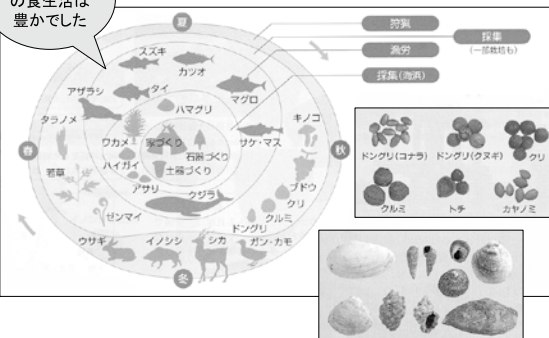


はぜ、野鳥の肉
海草、やまいも

木の実の粉と鹿(しか)、
猪(いのしし)などの肉、
野鳥の卵に塩と酵母
(こうぼ)を加えて石焼
きしたもの

「縄文時代」の食生活

「縄文時代」
の食生活は
豊かでした



「弥生時代」の食事

(卑弥呼の献立)



卑弥呼復原像
大阪府立弥生文化博物館
「平成10年秋季特別展」

献立

はまぐりの汁

あゆの塩焼き

ながいもの煮物

かわはぎの干物

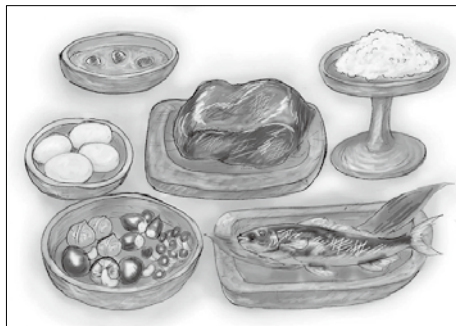
のびる

くるみ

くり

赤米(もち玄米)の強飯

「弥生時代」の料理のイラスト



考えてみよう？②

縄文時代にはなくて、弥生時代になってはじめて登場した料理は何でしょうか？

考えてみよう？②

縄文時代にはなくて、弥生時代になってはじめて登場した料理は何でしょうか？

ご飯(お米)



あかまい
赤米(もち玄米)の強飯



弥生時代になると、
稲作(いなさく)が
さかんになった

古代のお米(古代米)

赤米の玄米

黒米の玄米

白米の玄米

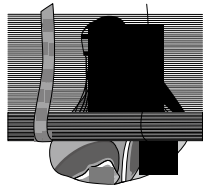


「平安時代」の貴族の食事風景



(『模本 春日権現霊験記絵巻』部分)

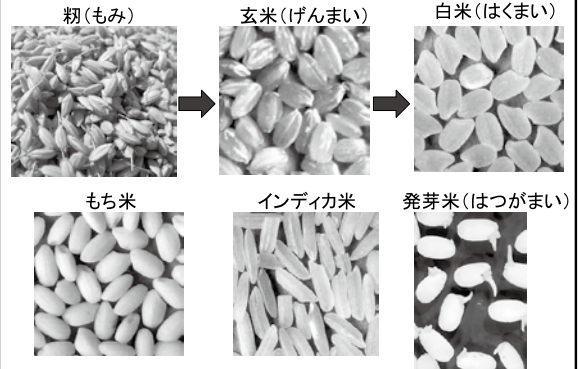
「平安時代」の食事 (紫式部の献立)



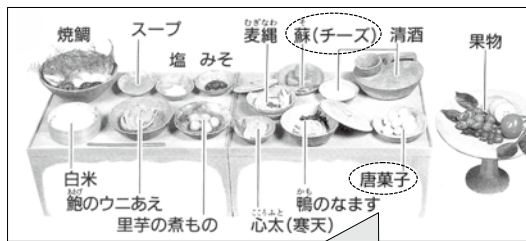
赤米から
白米に変化

献立
ぶりの煮物
あわびの煮物
かぶ汁
だいこんのもろみ漬け
玄米のご飯(半づき)

お米の種類(現代)

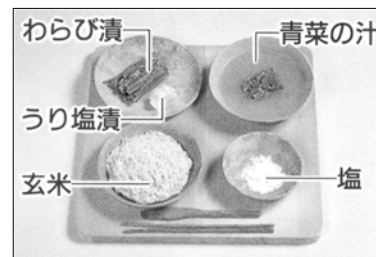


「平安時代」の貴族の宴会で 出された食事



貴族はチーズやお菓子を食べていた

「平安時代」の庶民の食事



「鎌倉時代」の食事 (源頼朝の献立)

武士の登場



献立
いわしの丸干し
梅干し
里いもとわかめのみそ汁
玄米の強飯

考えてみよう? ③

「醤油(しょうゆ)」と「味噌(みそ)」は、
どちらが先に登場したでしょう?





考えてみよう？③

「醤油(しょうゆ)」と「味噌(みそ)」は、
どちらが先に登場したでしょう？



味噌(みそ)



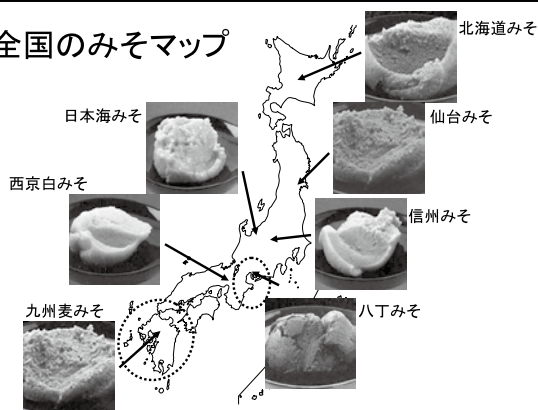
「味噌(みそ)」は奈良時代,「醤油(しょうゆ)」は
室町時代

いろいろなみそ汁

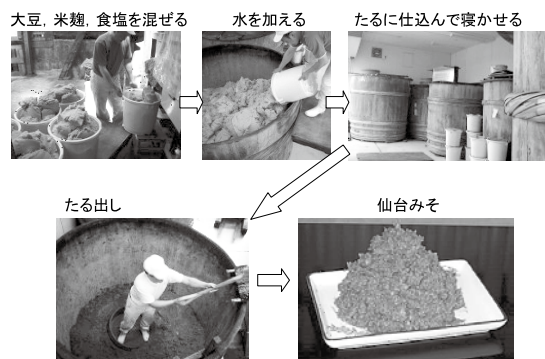
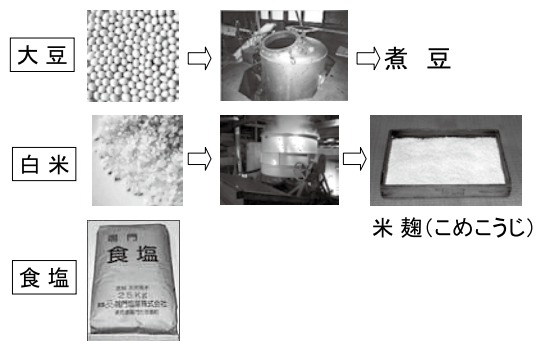


みその色が
ちがうね！

全国のみそマップ



米みその作り方



「江戸時代」初期の食事 (徳川家康の献立)



献立
はまぐりの塩蒸し
里いもとごぼうの煮物
たいの焼き物
かぶのみそ汁
なっとう
むぎめし
麦飯

昔のなっとうと現代のなっとう



わらづとなっとう



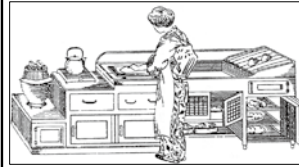
パックなっとう



カップなっとう



「大正から戦前の昭和」の庶民の食事



献立
大豆の味噌いため
たくあん
野菜のみそ汁
にんじん・だいこん
などの煮物
麦飯

白米のご飯も
食べていた

ご飯の歴史

強飯(こわめし)
土器で玄米を煮たり、
蒸したりして食べていた

弥生時代



固粥(かたがゆ)
土鍋で煮た水分の少ない
固めのお粥

奈良時代



姫飯(ひめい)
かゆの水分がへって、
飯のようになったもの

平安時代



ご飯
厚いふたのついた
釜(かま)で炊く

江戸時代



炊飯器の変化



現代の食事



献立
コーンスープ
ハンバーグ
スパゲッティ
ポテトサラダ
プリン
精白パン

考えてみよう? ④

昔の食事と今の食事では、
どちらが食べやすいでしょうか?
また、それはなぜでしょうか?



食べやすいのは_____の食事



それは_____から

考えてみよう？④

昔の食事と現代の食事では、
どちらが食べやすいでしょうか？
また、それはなぜでしょうか？

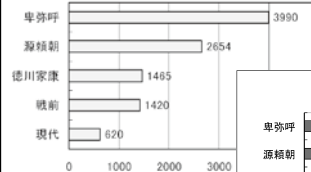
食べやすいのは今の食事

それはやわらかい料理が多いから

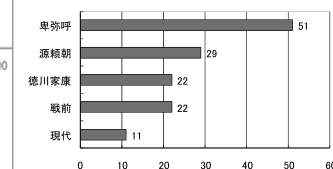
かむ回数と食事の時間



咀嚼回数(回)



食事時間(分)



食事の内容とかむ回数

ファストフード



かむ回数 562回

食事時間 8分27秒

栄養素構成

たんぱく質 12% 脂質 45.6% 炭水化物 40.7%

エネルギー量 約600kcal

日本型食生活



かむ回数 1019回

食事時間 13分28秒

栄養素構成

たんぱく質 23.7% 脂質 30.7% 炭水化物 45.6%

エネルギー量 約600kcal

2. 静岡県の食べ物



考えてみよう？⑤

静岡県の特産品や郷土料理には
どんなものがあるでしょうか？

お茶(緑茶)



- ・牧之原や磐田原の台地、愛鷹山(あしたかやま)、小笠山山麓(おがさやまさんろく)、安倍川・大井川・天竜川流域の山間部など20を超えるお茶の産地がある
- ・茶園面積は全国の46%、荒茶産出額は全国の41%を占める

さくらえび

由比のさくらえび干し



- 体の大きさは4～5cmくらいで、体の表面に約160カ所の発光体(はっこう)体をもっている
- 寿命は1年
- 駿河湾だけでしかとれない

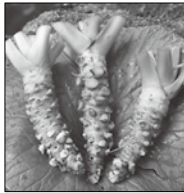


さくらえびのかきあげそば

沢わさび・わさび漬け



伊豆のわさび田



- 安倍川上流部、伊豆半島天城山系などの産地で生産され、産出額は日本一
- 生で消費される高級品が多いほか、加工品でも「静岡のわさび漬け」として全国に知られている

静岡おでん

わさび漬け



黒はんぺん



静岡県以外では、「白はんぺん」を食べる



白はんぺん

- さばやあじ、いわしなど、赤身魚を原料とした魚肉練り製品、
- 灰白色で半月形のものが多い
- 焼津の名産で、「静岡おでん」の具として重要



静岡おでん

お話を聞いてくださって、
ありがとうございました。

考えてみよう？①

「縄文時代」のひとは、どんな料理を
食べていたでしょう？

考えてみよう？②

縄文時代にはなくて、弥生時代になって
はじめて登場した料理は何でしょうか？

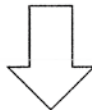
考えてみよう? ③

「醤油(しょうゆ)」と「味噌(みそ)」は、
どちらが先に登場したでしょう?

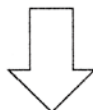


考えてみよう? ④

昔の食事と今の食事では、
どちらが食べやすいでしょうか?
また、それはなぜでしょうか?



食べやすいのは_____の食事



それは_____から

考えてみよう？⑤

静岡県の特産品や郷土料理には
どんなものがあるでしょうか？

〔講義のまとめ〕

日本の食文化を知ろう！

徳増五郎・中村桃子

講義を設定するにあたって

昨今のTV番組を見ていると、B級グルメや地元ラーメンなど地域の食についての番組が多い。フォーラムの本人部会でも、富士宮焼きそばの話題がでたことがあり、食についての関心が高いことが分かる。

そこで、食文化の専門家からお話を伺う機会を設定し、知的好奇心を喚起しながら、古代からの食文化の変遷や郷土料理についての理解を深める機会としたいと考えた。

<重視した点>

- ①講師が食文化の専門家であること。
- ②学習者参加型のクイズコーナーを設け、“学びのパートナー”である大学生と社会人との共同作業を取り入れること。
- ③参加者が、登呂遺跡や久能山東照宮を知っているであろうことから、歴史の要素を盛り込むこと。

講義の内容

①縄文時代の人は、どんな料理を食べていたのでしょうか？

- ・縄文人の生活の様子や、遺跡から出てきた食べ物から、どんな食事か考えてみる。

<答え> 焼いた魚・焼いた肉・焼いたどんぐり

さらに、「山海汁」「縄文パン」なども食べられていた。縄文時代には、土器があり、ぐつぐつと煮込む鍋料理のような料理ができ、様々な工夫をして食べていた。パンも現代のものと比べると固かったが、作ることができた。また、この時代は、その季節に採れる食材しか食べることができなかった。そのため、季節が違っていろいろな食材が手に入る現代よりも、「旬の食材」がはっきりしていて、たくさんの種類の食材を口にしていたため、縄文時代の食生活は豊かなものだった。



②縄文時代ではなくて、弥生時代になって登場した料理は何でしょう？

- ・弥生時代（卑弥呼）の献立や料理のイラストを見て考える。

<答え> ご飯

弥生時代になって、人々は水田を作って、稲作が行われるようになった。そのため、この時代からご飯が食べられるようになったが、当時のご飯は、赤米（もち玄米）の強飯が主だった。「赤」は魔除け・悪魔払いの意味があり、祝いの時だけでなく、困ったときや辛いときに食べても良い。現在食べられ



ている赤飯は、もち米の中に赤い小豆を入れることで赤くしているが、本当は赤米を使って作る。

③「醤油」と「味噌」はどちらが先に登場したでしょう？

＜答え＞ 味噌

- ・味噌は奈良時代、醤油は室町時代に食べられるようになった。また、微生物の働きで大豆からできる味噌は日本の伝統食品で、地域によって味や色に違いがあり、各地域の食文化として根付いている。
- ・大豆は、日本人にとって、とても大切な食べ物である。味噌や醤油の原料としても使われるが、江戸時代初期になると、「納豆」も食べられるようになる。現代の納豆はパックの中に入っているものが多いが、昔は、稲わらで大豆を包み、藁の中に含まれる菌の働きで大豆を納豆にして作っていた。

④「昔の食事」と「今の食事」では、どちらが食べやすい？ それなぜ？

＜答え＞ 食べやすいのは「今」の食事。それは、柔らかい料理だから。

現代の食事の献立と、昔の献立や食材を比べると、現代の食事の方が柔らかいものが多い。昔は、固いものも多く、噛むのに時間がかかり、1回の食事にかかる時間も長かった。弥生時代は、現代の6倍以上噛み、1時間程の時間をかけて食事をしていた。

「たくさん噛む」ことは、頭に血が届き、頭がすっきりしたり、記憶力があがったり、唾液がたくさん出されるため、口の中がきれいになり、虫歯予防になったりといいいことがたくさんある。

⑤静岡県の特産品や郷土料理にはどんなものがあるでしょう？

＜答え＞ お茶・桜海老・黒はんぺん など

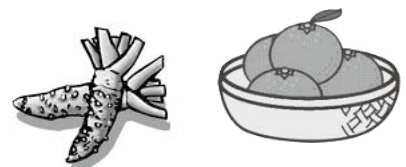
- ・静岡県には、20以上のお茶の産地があり有名。
- ・静岡県の由比で捕れる桜海老は、夜に光る発光体を持ったエビで、日本では駿河湾だけでしかとることができない。
- ・その他にも、きれいな水でしか育てることのできない「ワサビ」や、みかん、うなぎなどの食べ物がある。そのように、静岡県は気候が温暖なこともあり、自慢できる食べ物が多くあるので、誇りに思っている。



スモールワークの様子（アンケートの記述から - 原文のまま）

【卒業生・社会人】

- ・静岡の名物をいろいろ教えてもらってわかりやすかったです。
- ・食の移り変わりがよく分かった。
- ・むかしの食事がたべたくなった。



【学びのパートナー】

- ・静岡県の特産品を意外と自分が知らなくて、もっと静岡のことを知りたいと思いました。
- ・人の咀嚼回数思った以上に減っているのに驚きました。
- ・やわらかい食べ物でも意識的にたくさんかむようにしようと思いました。

- ・身近な静岡の食材にふれたことで、講義の内容が日常の生活につながったのではないかと思います。

講義を聴いて

- ・私たちが生きていく上で、欠かすことのできない「食」についての講義だったこともあり、受講生も興味深く参加することができた。
- ・縄文時代から現代までのそれぞれの時代の生活の様子と絡めながら、当時の食事を分かりやすくイラストや写真で説明していただいたことで、当時の食事と現代の食事を比べたり、想像したりして話を聞くことができ、食文化の移り変わりがわかりやすかった。
- ・アンケートからも、自分の身近な食生活についての理解が深まったり、自分の住む静岡県の食文化についての興味が深まったりした受講生が多く、受講生に「食」について改めて考える機会を作ることができる講義であった。

【講義③】

世界の人と「こんにちは！」

案野 香子

世界の人と「こんにちは！」

案野香子(あんのきょうこ)
静岡大学国際交流センター
2010年10月17日@大学会館

世界にはいくつ国があるだろう？

- 世界には、193 の国があります。

面積の広い国は・・・？ → [ワークシート]
人口の多い国は・・・？ → [ワークシート]

面積の広い国は・・・

1位 ロシア	日本の 約45倍
2位 カナダ	約26倍
3位 アメリカ	約25倍
4位 中国	約25倍



面積の広い国

5位 ブラジル	約22倍
6位 オーストラリア	約20倍
7位 インド	約 9倍
8位 アルゼンチン	約 7倍
9位 カザフスタン	約 7倍
10位 スーダン	約 7倍



面積の狭い国は？
1位 バチカン市国
東京ディズニーランドと同じくらい！！)



2位 モナコ公国
モナコグランプリ(F1)が有名！



人口の多い国、少ない国

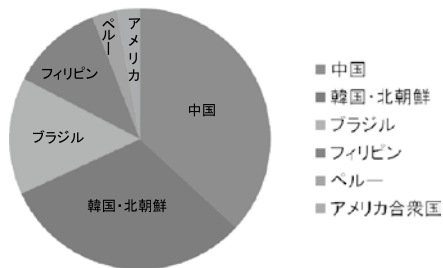
1位:中国	13億4600万人
2位:インド	11億9800万人
3位:アメリカ合衆国	3億1500万人
4位:インドネシア	2億3000万人

人口の多い国、少ない国

5位:ブラジル	1億9400万人
6位:パキスタン	1億8100万人
7位:バングラデシュ	1億6200万人
8位:ナイジェリア	1億5500万人
9位:ロシア	1億4100万人
10位:日本	1億2700万人
.....193位	バチカン市国(800人)

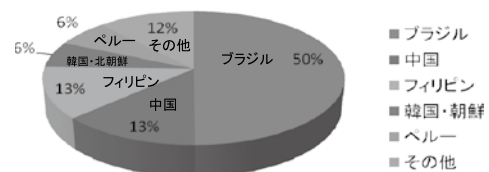
日本にはどこの国の人が多い?

列2



静岡にはどこの国の人が多い?

静岡県の外国人数



静岡に来た外国人

- ・ 静岡のどんなところが好き?
- ・ いちご、ふじ山、みかん、お茶
- ・ 静岡の人は親切
- ・ ゆっくりしている



静岡に来た外国人留学生

留学生	オーストラリア	ブレイク	さん
	韓国	チョウ・ミス	さん
	フィリピン	トレド	さん

・出身国(出生地)の紹介

自然、気候、街並み、衣食住の文化
歌、遊び、歴史、観光地、名所旧跡
各国までの行き方(交通手段、行程) など

・日本、静岡の好きなところ

・日本、静岡で困ったこと(直してほしいところ)

・一緒にやってみよう!

あいさつ、各国のうた、あそび など

世界の「こんにちは！」

英語

ハロー

グッド アフタヌーン



ホワイトハウス ビッグベン コアラ

中国語 ニイハオ！

万里の長城
(ばんりのちょうじょう)

上海(しゃんはい)



韓国語 アンニョンハセヨ！

キムチ



ヨンさま



ノンシュバンシュタイン城
ドイツ:
ゲーテンターク！



ロナウド選手

ポルトガルの街

ブラジル ポルトガル語「ボア タルデ！」



フランス料理 (おいしそう！)

フランス語 ボン ジュー(ル)

フィリピン クムスタ!
バナナ マンゴー

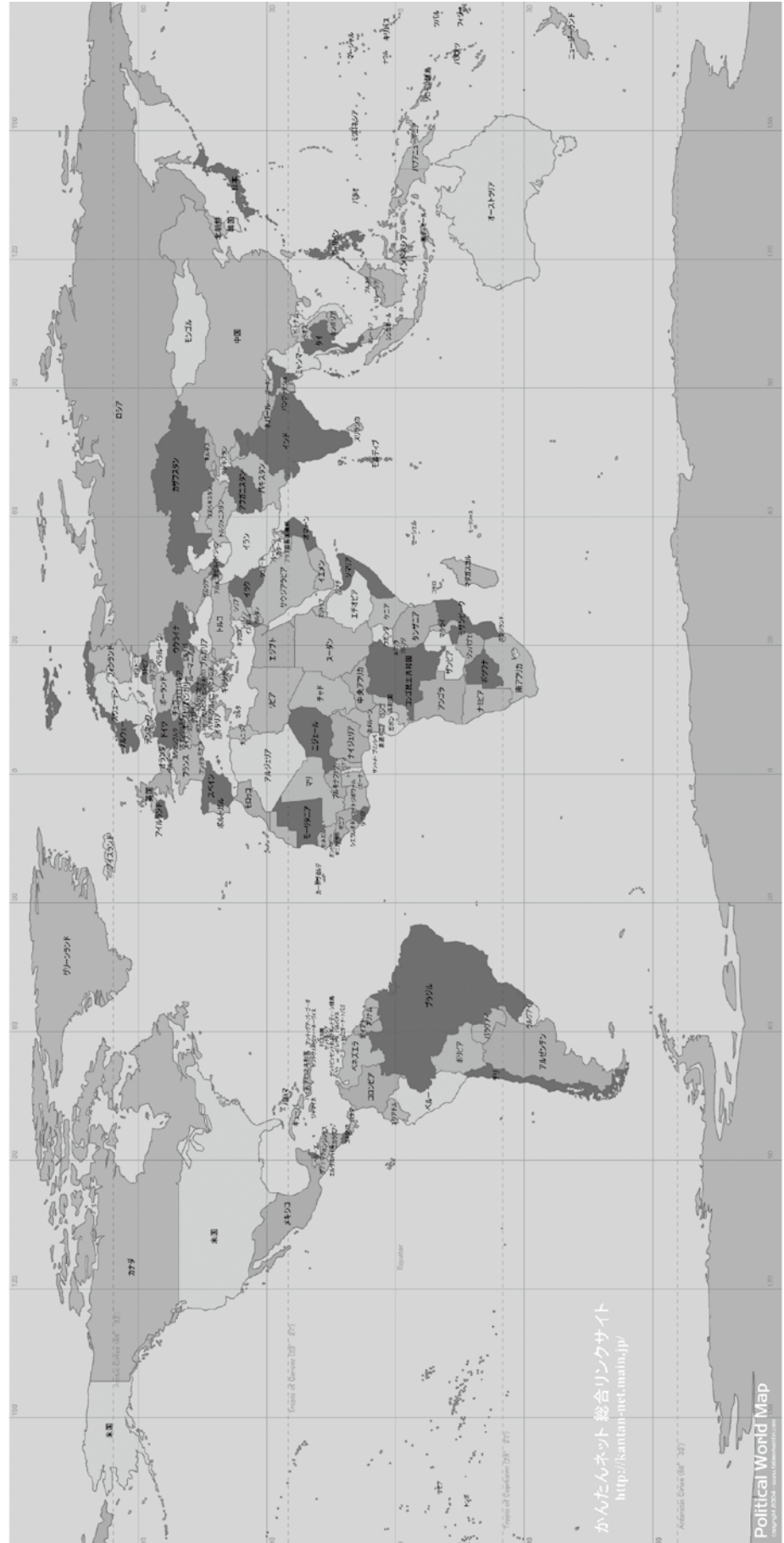


これであなたも・・・

こくさいじん!!!
みんな「ともだち」!!

資料 世界地図

世界にはいくつ国があるでしょうか？
面積の広い国、狭い国はどこでしょうか？
人口の多い国、少ない国はどこでしょうか？
日本、静岡にはどこの国の人が多い？



2010年10月17日(日曜日)

「大学で学ぼう」

せかい ひと 世界の人と「こんにちは!」

案野香子(あんのきょうこ)

Q1



ナタリー: ねえねえ、

せかいにはいくつくに

あるか知ってる?

スザンヌ: _____ じゃない?

Q2 めんせき ひろくに
面積の広い国 ベスト10!

ヒント!!! つぎ くに なか えら
次の国の中から選んでみよう。

ちゅうごく
中国

ロシア

ブラジル

がっしゅうこく
アメリカ合衆国

オーストラリア

カナダ

1位 _____

6位 _____

2位 _____

7位 インド

3位 _____

8位 アルゼンチン

4位 _____

9位 カザフスタン

5位 _____

10位 スーダン

Q3 人口の多い国 ベスト10！

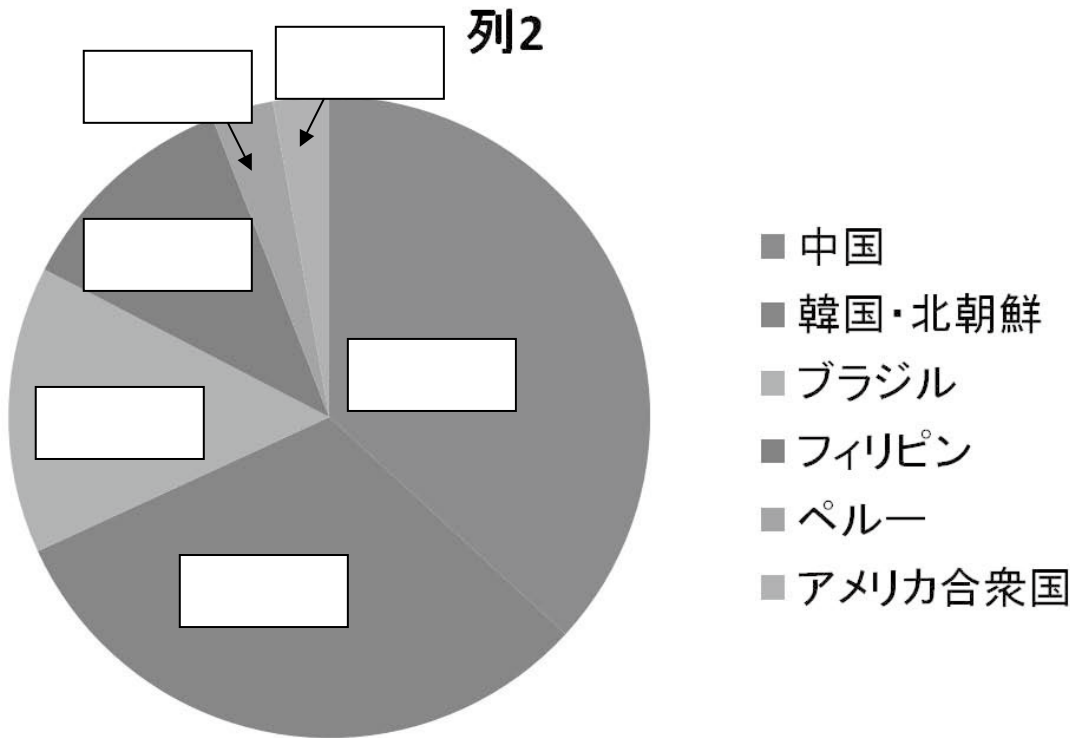
ヒント！！ 次の国の中から選んでみよう。

ブラジル	日本	中国
アメリカ合衆国	インド	ロシア

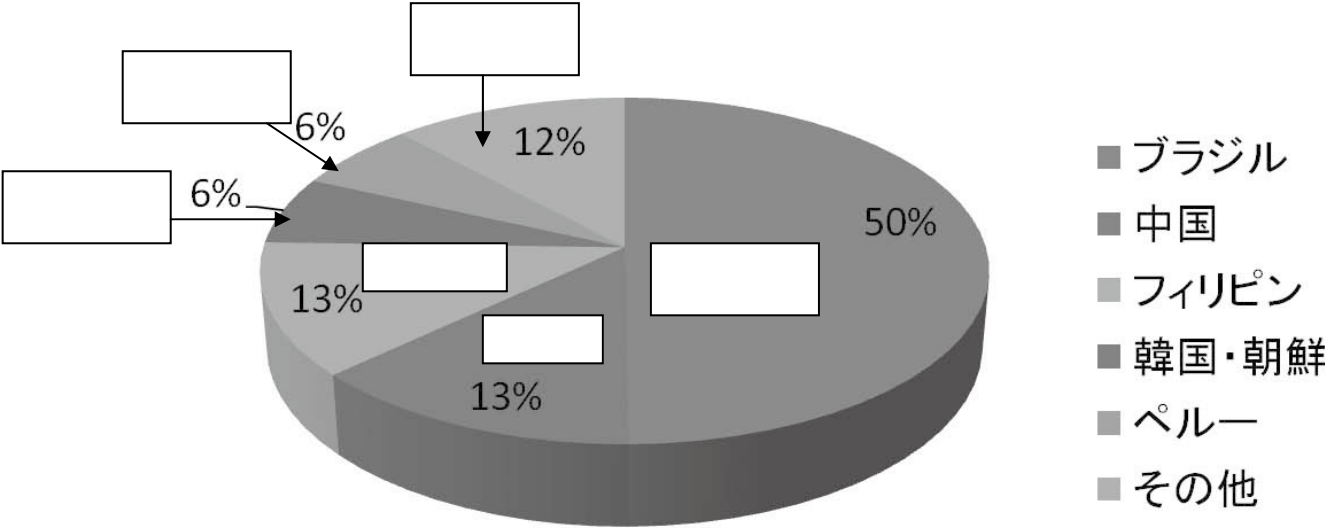
1位 _____	6位 パキスタン
2位 _____	7位 バングラデシュ
3位 _____	8位 ナイジェリア
4位 インドネシア	9位 _____
5位 _____	10位 _____

それぞれの国がどこにあるか、地図でたしかめてみよう（*^_*）

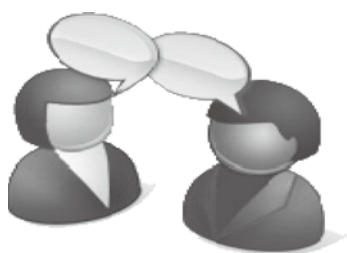
日本にはどこの国の人が多い？



静岡県の外国人人数



せかいの人と「こんにちは！」



にほんご
日本語

・ ボア タルデ！

えいご
英語

・ アンニョンハセヨ！

ちゅうごくご
中国語

・ グーテンターク！

かんこくご
韓国語

・ こんにちは！

ドイツ語

・ ハロー！

ポルトガル語

・ ボンジュール（ル）！

（ブラジル、ポルトガル）

フランス語

・ クムスタ！

タガログ語

・ ニイハオ！

（フィリピン）

〔講義のまとめ〕

世界の人と「こんにちは!」

高木 亮

講義を設定するにあたって

「大学で学ぼう」で取り上げてもらいたいテーマを話し合う中で、世界の国々のことについて知りたいという話題が上がった。これまでの講義の中でも、日本人である講師の方々の体験を通して、様々な国の生活や文化の紹介をする内容は取り上げてきた。

そこで、今回は、その国で生まれ育った外国人の方々から、自然や生活、文化等について直接お話を伺える場を持ちたいと考えた。そのために、留学生を受け入れている静岡大学国際交流センターの先生を講師にお招きして、世界にはどんな国があり、そこにどんな人が住んでいて、どんな暮らしがあるかなどについて、実際に留学生からのお話も交えながら講義をしていただくことにした。

<重視した点>

- ①講師の方は、世界の国々のことに広くお話をしていただけて、外国人の方を実際に紹介していただける方であること。
- ②学習者参加型のクイズコーナーを設け、学びのパートナーである大学生と社会人でも考える場面を設定した。
- ③各国の外国人の方から直接、出身国の生活や文化等についてお話をいただき世界の国々について身近に感じられるようにする。

講義の内容

①静岡大学国際交流センターとは？

- ・外国人留学生の受け入れをして、留学生が勉強しやすいように日本語を教えたりするなどのお手伝いをする。外国人留学生の中には、母国では教師、会社員、学生など様々な職業の経験者や立場の方がいて、それぞれに勉強の目的を持って留学されている。
- ・日本の学生で外国留学したい方に、留学の紹介、斡旋を行っている。
- ・外国人の紹介→オーストラリア人のブレイクさん（学生）、韓国人のチョウさん（主婦）
フィリピン人のトレドさん（教師） *（ ）内は母国での職業

②世界にはいくつ国があるだろう？（クイズ形式・ワークシート）

- ・世界には193カ国の様々な国がある。

③国土面積や人口の違いは？（世界地図を参考にクイズ形式・ワークシート）

- ・面積が一番広い国はどこ？→1位ロシア（日本の45倍）、2位カナダ、3位アメリカ・・・
- ・面積が一番狭い国はどこ？→1位バチカン市国（東京ディズニーランドと同じくらい）
- ・人口の多い国はどこ？→1位中国13億4600万人・・・9位ロシア1億4100万人、10位日本1億2700万人・・・193位バチカン市国800人
- ・ロシアは世界で1番面積が広い国だが、人口は日本と同じくらいの人口である。
- ・バチカン市国は、講義参加者の1人が4人の友だちを連れてくれば1つの国ができる。

④日本にいる外国人の数は？

- ・日本にはどこの国の人が多いか？→1位中国、2位韓国、3位ブラジル・・・6位アメリカ
- ・静岡にはどこの国の人が多いか？→1位ブラジル、2位中国、3位フィリピン・・・
- ・静岡県で働いている外国人のうち50%はブラジル人である。焼津や浜松にはブラジル人の日本人学校がある。

⑤静岡にきた外国人に静岡の好きなところは？

- ・講師の先生がセンターの留学生に静岡の好きな所を聞き取りした結果
いちご、みかん、お茶がおいしい。富士山が美しい。みなさん親切。困った時に助けてくれる。
東京の人はいつも走っているが静岡の人はゆっくりしている。仕事もゆっくり。

⑥静岡大学の外国人留学生に、母国紹介や日本に来ての感想を聞いてみよう！

<オーストラリア人のブレイクさん>

人口2,000万人。面積は広く国内で時差3時間。出身地は東海岸のゴールドコースト。原住民のアボリジニーが何万年と住んでいた。昔はイギリスの植民地で建国から200年ほどの新しい国。国旗は星が6つで星の角は7つあり州を表わす。日本からは飛行機で8時間ほどかかる。動物は、カンガルー、コアラ、エリマキトカゲ、カモノハシ、タスマニアデビルなど、スポーツは、クリケット、ネットボール、フットボールなど豪州特有のものが多い。食べ物は牛肉が有名だが、カンガルー、ワニ、エミユなど日本では食べないものもある。デザートは炊いたご飯に牛乳と砂糖をかけたものを食べる。オーストラリアは外をはだして歩ける。ビーチがとてもきれい。スーパーの買い物かごは人が2人入る位とても大きい。日本の好きな所は電車がきれいで時間どおり。自販機は便利。静岡では自転車のベルはほとんど鳴らさない。オーストラリアの応援エール「オジオジオジ（オイオイオイ）オジ（オイ）オジ（オイ）オジオジオジ（オイオイオイ）」をやってみよう！

<韓国人のチョウさん>

日本に一番近い国は中国、韓国。静岡空港から1時間40分程でいけるのでぜひ遊びに来て下さい。面積は日本の北海道より少し大きい位。人口4,600万人。北朝鮮は3,000万人程。気候は日本と同じで春夏秋冬の四季がある。食べ物は、お米がとても美味しく主食はごはん。キムチ、ちぢみ、プルコギなどが有名。日本では器をもって食べるが韓国では置いて食べるのがマナー。箸ではなくスプーンで食べる。会話中の身振りで「わたし」は、日本では鼻を指すが韓国では胸を指す。「違う」は、日本では手を左右に振るが韓国では「くさい」という意味になってしまう。韓国のじゃんけんは、グーとパーは日本と同じだがチョキは、親指と人差し指を立てる。静岡の人はとても親切。

<フィリピン人のトレドさん>

昨年10月に来日。日本語まだうまくない。フィリピンの首都はマニラでトレドさんの故郷。スペインに300年間、日本に3年間、アメリカに植民地



にされた歴史があり1946年7月4日に独立したばかり。気候は4～8月は28℃と暖か（夏季）、9～3月は25℃と涼しい（雨季）。外国人が観光でよく訪れる。国土は大小様々な7,000の島からなっている。共通語は英語だが島ごとに言語は違う。ボラハリという食べ物おいしい。飛行機で4時間程で行ける。日本の好きなのは京都の歴史、広島や東京にも行きたい。電化製品がすごい。日本で困ったことは、静大からの帰り道迷子になってしまった。日本語がうまくなりたーい！

⑦世界の「こんにちは！」

- ・世界中のひとと仲よくなるためにはまず挨拶から！

英語「ハロー、グッドアフタヌーン！」、中国「ニイハオ！」、韓国「アニョンハセヨ！」、ドイツ「グーテンターク！」、ブラジル・ポルトガル「ボア タルデ！」、フランス「ボンジュール！」、フィリピン「クムスタ！」

⑧これであなたも国際人！

- ・世界の国のひとと「こんにちは」が言えるようになりました。あいさつをきっかけに外国の方と友だちにならしましょう。
- ・国際人とは、いろいろなひとと友だちになって分かりあえて仲良くなれるひとのことです。

スモールワークの様子（アンケートの記述から－原文のまま）

- ・来年も「世界のひととこんにちは」をやってほしいです。「世界の言葉VS日本の言葉ゲーム」「ワンポイント英会話」などをやってほしい。
- ・ゲストにがいこくの人がかきていてびっくりしました。フィリピンのあいさつはとてもむずかしかったです。
- ・留学生のひとが初めて日本にきた時は言葉が通じずに目的地にたどり着くまで時間がかかってしまったと聞いて、ぼくも同じと思いました。違う国へまったく動けなくなることがよく分かります。
- ・国によってことば、食べ物ちがうんだなっておもった。楽しかった。友達になりたいと思った。

講義を聴いて

- ・世界の国々の数や国土面積、人口などの話はイメージが持ちにくい部分もあったが、クイズ形式で行ったことで社会人も積極的に参加する姿が見られた。難しい内容でも、学びのパートナーと考えるグループワークを行ったことで活発な話し合いが持たれた。
- ・外国人留学生をゲストに迎えて、各国のよさ、逆に日本についてどう思うかを聞くことができ、社会人の方の心に残るものになった。今後も、話を聞くだけでなくより相互に気持ちが通い合い、理解し合えるような活動も考えていきたい。

【資料編】

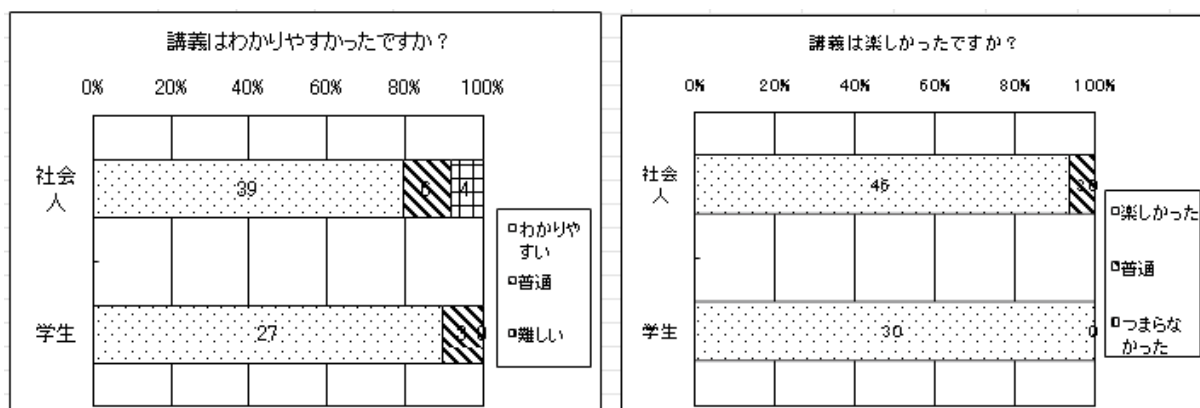
受講後のアンケートのまとめ
学びのパートナーとして、いっしょに受講して
参加者の感想
これまでの「学ぶって楽しい！ー大学で学ぼうー」
スタッフ名簿

受講後のアンケートのまとめ

川原 貴之

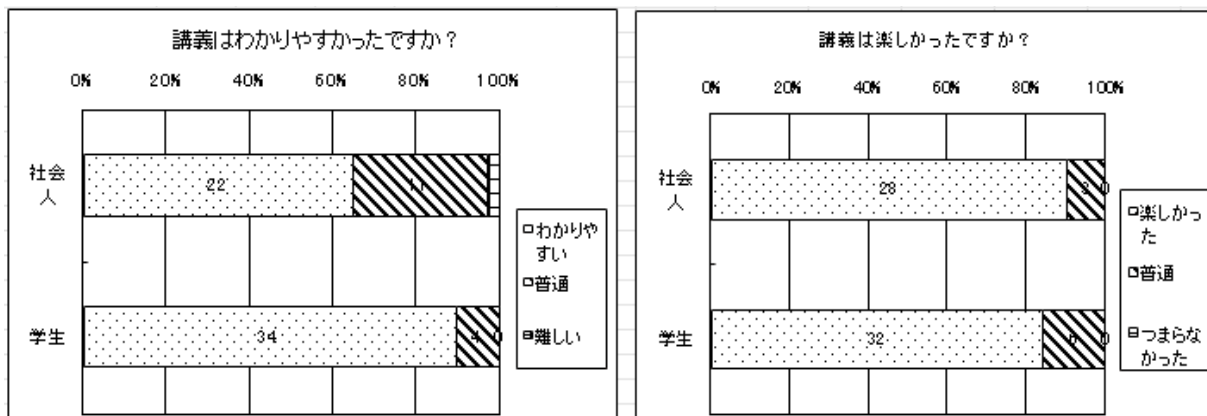
各講義の終了後に行った3回のアンケートを以下のようにまとめる。

〇講義1 描くことの魅力を知ろうー色やかたちを見つめて(高橋智子先生)



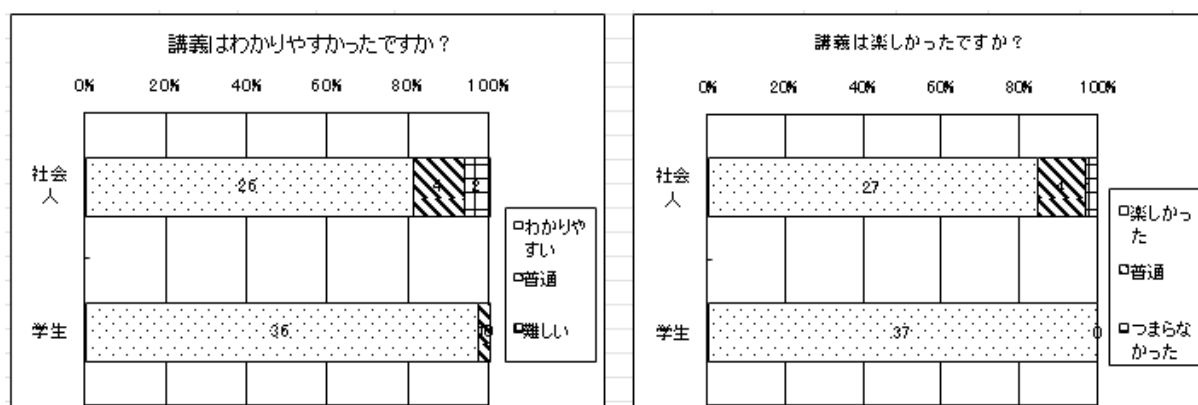
スケッチというものが、「対象をそっくりに描くこと」が目的ではなく、「対象をよく観察し、発見したことや感じたことを自分らしく表現すること」ということを知ることができた。また、鉛筆の魅力について体験を通して実感することもできた。

〇講義2 日本の食文化を知ろう!(新井映子先生)



縄文時代と現代の食文化を比較するなどして、時代による食文化の移り変わりを知ることができた。また、昔に比べて、咀嚼回数が減っていることや静岡の名産物について知ることができた。静岡の名産物に触れたことで、自分たちの生活に置き換えて考えることができた人が多くいたようである。

○講義3 世界の人と『こんにちは!』(案野香子先生)



日本と比べた世界の国々の情報を知ることができた。また、日本や静岡にどこの国の人が多くいるのかということや、静岡に来た外国人が静岡のどんなところが好きかなどについて知ることができた。

アンケート結果も、「わかりやすい」「楽しかった」という意見が殆どで、もっと多くの国のことを知りたいという意見が多くあがった。

学びのパートナーとして、いっしょに受講して 「学ばって楽しい！ー大学で学ぼうー」に参加した大学生の報告・感想など

渡辺 明広

静岡大学公開セミナー「学ばって楽しい！ー大学で学ぼうー」は、障害のある人もない人も共に学ぶ、ユニバーサルな学びを目指している。セミナーが始まった当初から、静岡大学教育学部特別支援教育専攻等の学生が社会人といっしょに講義を受講している。今回もセミナー終了後に、学生たちに学びのパートナーとして、「講義中のスモールワークの取り組み状況」についての報告や感想などを求めるアンケート調査を行なった。

調査の概要

- ・調査対象：静岡大学教育学部特別支援教育専攻等の参加学生（第10回35名、第11回36名）
※第10回は1年生が5名、2年生が30人。第11回は1年生が27名で、3年生が9人。
- ・調査内容：「講義中のスモールワークの取り組み状況」
- ・アンケート調査の実施期間：第10回 2010（平成22）年 6月23日～ 7月14日
第11回 2010（平成22）年 10月19日～11月 9日
- ・回答方法：選択肢回答と自由記述を併用。無記名。調査用紙配布、記入後に各自が提出。
- ・回収数：第10回28（回収率80.0%）、第11回33（回収率91.7%）

調査の結果

Q1「あなたは、受講した人達が知的障害のある、なしにかかわらず、講義中のスモールワークに全体としては、いっしょに取り組めたと思いますか」（「大変取り組めた」「かなり取り組めた」「ふつう」「あまり取り組めなかった」「ほとんど取り組めなかった」の5段階評価。他に「何とも言えない」もあり。評価をした理由を自由記述）（表1）

表1 Q1「あなたは、受講した人達が知的障害のある、なしにかかわらず、講義中のスモールワークに全体としては、いっしょに取り組めたと思いますか」

段階 回	5 大変 取り組めた	4 かなり 取り組めた	3 ふつう	2 あまり 取り組めなかった	1 ほとんど 取り組めなかった	0 何とも 言えない
第10回	9名 (32.1%)	15名 (53.6%)	3名 (10.7%)	1名 (3.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
第11回	12名 (36.3%)	15名 (45.4%)	3名 (9.1%)	2名 (6.2%)	0 (0.0%)	1名 (3.0%)

- ・第10回は「5 大変取り組めた」と「4 かなり取り組めた」合わせて85.7%であるが、「4」の段階が多い。第11回は「5 大変取り組めた」と「4 かなり取り組めた」合わせて81.7%であるが、「5」の段階が参加学生の3分の1以上ある。どちらの回も、多数の学生が社会人といっしょに取り組めたと評価した。

＜第10回＞（自由記述 原文のまま）

「自分でも絵をかくことができたし、受講者の方が個性的にいろんな絵をかいてて、いろいろ話すことができた」（以上、評定5）、「会話しながら楽しく講義を受けられた」「隣に座ってくれている人には積極的に話し、名前も呼び合ったりして、また同じ絵をかいたりして仲良くなりました。でも、少し遠くに座っていた人とは話せませんでした」「『この色すてきですね』とか、『この葉っぱも描いてみたらどうですか？』など、何気ない会話をしながら楽しく活動できたので」「それぞれが、協力しなければできなかったと思うから」「初めて話す人でも積極的に話し、その作品の良さ、ポイント等を話し合えたから」「たくさん話しかけてくれたし、たくさん話ができたとと思う」（以上、評定4）、「絵を書くだけじゃ話し合いにはつながらない」「個人の作業中心だったので、一緒に集中して取り組むことはできたと思うが、協力・交流という点では、そこまでできなかったと思う」（以上、評定3）、「何を言ってくれているのかわからなかったこともあったので。意志の疎通が難しいと思った」（以上、評定2） etc.

＜第11回＞（自由記述 原文のまま）

「積極的に話し掛けてくれたのでたくさん関わる事が出来た」「クイズ形式の問題をグループみんなで考えたりして楽しくグループを行うことができたから」「どちらか一方でなく一緒に案を出すことができたので」「話し合ったり、質問を受けたりした」（以上、評定5）、「普通に友人に接するようにすることができたから」「学生が問題の説明をしたり問題を一緒に考えたりして共に学ぶ雰囲気があったと思う」「互いに話ができたり、話に対して、リアクションが同じだったから」「自己紹介をはじめ、お話をする機会がとても多かった。好きなことについていろいろ話がきけた」「アイスブレイクの時、あちらこちらであいさつする姿が見られたので」（以上、評定4）、「一緒にグループワークをしようと話し合っていたものの答えが返ってこないこともあり、話し合いがはずまないことがあったから」（以上、評定3）、「正直グループみんなで授業に真剣にとりくむことはできましたが、あまりグループで話したりすることができなかったと私は思いました」（以上、評定2） etc.

Q2「あなたは、受講していた知的障害のある人に、どんな場面で、どんな援助や配慮をしましたか。援助をした人はできるだけ具体的に書いてください。特になかった人は『なし』と書いてください」（自由記述）

講義中の援助内容や方法、援助をした際に配慮したことに言及した回答について、第10回と第11回の2回分を以下に集めた。何らかの具体的な援助をした学生は52名（延べ人数）であった。「なし」は9名で、第10回は5名、第11回は4名であった。

・援助の内容や方法は、＜教える・説明する（方向を示す）（アドバイスする）（指さす）＞（27名）、＜問い掛ける・声掛けをする・促す＞（9名）、＜いっしょに作業をする（補助をする、手伝う）＞（8名）、＜例を挙げる・手本を見せる・ヒントを言う＞（5名）であった。

＜教える・説明する(方向を示す)（アドバイスする）（指さす）＞（以下、自由記述 原文のまま）

「スクリーンに表示された漢字がわからなかったようなので、手元にあった紙に大きく書いて見せた。色を選ぶのに苦戦していた様子だったので、アドバイスした」「絵の具を作る時、もっと水を増やしたら方がいいなどアドバイスしたりしました」「やってよかったと思ってもらえるよう、スケッチでいい点を見つけ伝えるようにしました。また、活動が広がるよう、“もう少しこうやって色をぬってみたら”とアドバイスもしました」「絵の具の色が濃すぎた方がいて、その方に、水をもっとたくさん含ませると良いアドバイスをしました」「講義の中で見ているプリントやワークで使うプリントが分からないようなときにしのプリントを示す援助をした」「ワークシートの問題の説明や、どのパワーポイントの説明をしているのかを教えること」「国の場所がわからなかった方に場所を指示し教えてあげた。次に何をすればよいか何度か伝えた」「今、プリントのどの場所を説明しているのか、レジュメを見ながら指さしで教えた」「グループワークや講義の中でページを示したり、プリントを提示したりした」 etc.

<問い掛ける・声掛けをする・促す>

「描き始めることができない人に、“この所はどんな感じになっていますか？”と言った」「“〇〇に注目して良いですね”と言葉かけをしたり、1つ描き終わってしまったときに、次に何をするか促したりした」「絵を描く際にゆっくりとくぎって“ふでを、よいいします””えんぴつで、かきます”などうながしたり、絵の具をだしたりした」「最初、机についた時に、自分から積極的に話しかけるようにした」「講義の最後に書いたアンケートに自由に書ける欄がありましたが、何を書いていいのか分からず、とまどっているようでした。なので、配られた資料をもう一度一緒に見直して“～もやりましたね。～の話を聞きましたね”と言って、一緒にアンケートをかきました」 etc.

<いっしょに作業をする（補助をする、手伝う）>

「楽しく取り組めるよう、積極的に話しかけていました。絵でつまっている時はアドバイスしたり、色の配色も手伝ったりしました」「文字を書くのが遅かったり、漢字が読めなかったりしたのでワークシートと一緒に書いたり、漢字にふり仮名をふった」「プリントを探す手伝いをした」「考える時など見ればわかるというのもあったりしましたが、簡単に教えず一緒に考えました」 etc.

<例を挙げる・手本を見せる・ヒントを言う>

「プリントに答えや考えを書く時に、自分が見本を書いてあげて、まねできるようにしました。（質問が理解できなかったり、言葉がひらがなでしかわからず、書けなかったため）」「講義の中で質問されたり、考える時は“～じゃない？”という感じでヒントを話した」「個別で考える時、グループ内の方にヒントを与えた」 etc.

・援助をする際には<体の力をぬくように（アドバイスした）>、<良いところを言うようにした>、<ゆっくりとくぎって（うながした）>、<はっきりと話しかけた>、<きちんと目を見て>、<自分から話し掛けた>、<ヒントを話した><簡単に教えず><（わかりやすいように）書き換えたり、言い換えたり>といった配慮や具体的な援助の方法を取っていた。

「手が強ばって線が上手にひけない人に、体の力をぬくようにアドバイスした」「良いところを言うようにした」「絵を描く際にゆっくりとくぎって“ふでを、よいいします”“えんぴつで、かきます”などうながしたり、絵の具をだしたりした」「グループワークの話の輪に入れるように、一人一人みんなの意見を聞くようにした」「“わからない”とおっしゃった時はゆっくりと簡単な言葉で、説明したり、ヒントになるようなことを伝えながら共に考えるようにした」「漢字表記や小さな文字をわかりやすいように書き換えたり、文を言い換えたりした」 etc.

まとめ

「講義中のスモールワークにいっしょに取り組めたと思いますか」の問いに、「大変取り組めた」「かなり取り組めた」と答えた学生が85.7%（第10回）と81.7%（第11回）であった。「学ぶって楽しい！」の回を重ねるたびに、この数値は上昇している。いっしょに取り組んだことの具体的な様子は自由記述の中に見られるが、達成感や満足感が伺える。参加の大学生は1年生や2年生が多いが、スモールワークの取り組みでは、社会人の求めに応じて、また、その様子を見ながら、必要に応じて<教える・説明する>ことを中心に様々なかかわりを積極的に行っている。また、<体の力をぬくように（アドバイスした）>、<良いところを言うようにした>、<ゆっくりとくぎって（うながした）><（わかりやすいように）書き換えたり、言い換えたり>など、社会人の主体性を尊重した配慮がユニバーサルな学びを実現している。

参加者の感想

山中 佑美

講義終了後、受講されたみなさんから、感想をいただきました。(原文のまま)

第10回 描くことの魅力を探ろうー色やかたちを見つめて

- 私は絵を描くことが好きなので「あじさいの花」の絵や葉っぱの絵を描くことができて良かったです。ちょっと斬新な絵になっちゃったけど、自分なりの良い絵を描くことができて良かったです。作品を展示されるのはちょっとはずかしいけど、作品を飾られるとうれしいです。
- りんご本体をよく見て色を選んで描いて完成したのが心に残りました。また今日みたいなことをもっとやりたいです。
- 絵は苦手だけど、上手に描けて良かったです。
- 普段から絵を描くのは好きなので、最初描き始めるまでは不安でしたが、だんだん描いているうちに楽しくなってきました。
- 絵の具を使ったのは久しぶりでした。中学時代は良い成績をとるために上手に描かなきゃいけないと思っていたけど、今日はほんと自由に描けたので楽しかったです。
- いろいろな絵を見ることができて良かったです。自分で絵を描くことの楽しさを感じるだけでなく、他の人の絵を見て楽しむことができ素晴らしい時間となりました。
- 今日は花のつぼみや葉っぱの形がわかりました。またぜひ違うのをやってみたいと思います。
- 人によって物の見方が違うことを実感しました。絵はそれがよく出ると思います。
- 何かに視点をもって、よく見て描くことがとても難しいことであり楽しいことでありました。
- じっと見たことによって花びらにある細いすじやきれいな色に気づくことができました。花や葉がかわいく思えました。
- 参加者の方たちはいろいろな点から描いていておもしろかったです。葉を赤でぬったりして、それが確かにある色なのですごいところに気づくなと思いました。
- 絵を描くのは苦手だったけど、あじさいの色の青色を出すのがわかりました。水加減で色の違いが変わることがわかりました。
- 色を混ぜて植物の色を表現するのは難しかったです。
- パッと見は一色のように見えても、じっくり見ると何色かあることに気がつきました。
- 葉と茎の色を変えるなど、皆工夫されていました。以外と薄い色塗りだと思いました。
- 水で薄くした絵の具でぬると色が少しずつ重なってとてもきれいに塗ることができて感動しました。社会人の方も集中して好きなものを描いていて、出来映えにとっても満足していたようでした。一人一人の個性が出ていてとてもきれいでした。
- うすい色ができてうれしかったです。又、色の変化が出たり、モネの話を聞けて良かったです。
- ルノワールの絵も見たいです。
- 身近なところに美しさがあると思ったことが素敵でした。また絵を描きたいです。
- 身近な自然を改めて見ると様々な発見があるということがわかった。
- 鉛筆の歴史や種類がわかった。
- 先生がひとりひとりにそれぞれその人に合った声かけをたくさんしている姿を見て、大切なことを学びました。葉っぱ一枚についても裏にしたり、すかして見たり、葉脈を意識させたりい

ろいろな見方をやさしくていねいに説明してくださっていました。学びをつなげる手法ってあるんだなあと思いました。

○絵を描く方法、視点、色遣いなど人それぞれで個性あふれていてどれもおもしろいなあと感じました。どれも素敵でした。

○えんぴつのおもしろさや絵の具の楽しさに存分に触れることができましたと思います。すごく集中して一人一人ががんばっている様子がよかったです。

第11回 日本の食文化を知ろう！

○お米のことがわかりやすかった。

○お米の種類がわかった。昔も今もごはんを食べていることがわかりました。

○赤飯の元は、赤米だったことがわかった。

○赤米はまよけになるからすごい。

○食の移り変わりがよく分かった。

○むかしの食事がたべたくなった。

○むかしといまでちがうことがわかりました。

○歴史上の人物の献立をみながら、とてもわかりやすく楽しんで参加できました。

○食の歴史はおもしろいですね。

○炊飯器の変わっていく様子も、写真で見ることができて分かりやすく、興味深かったです。

○日本の食文化が、戦前と戦後で大きくかわったということがわかりました。鎌倉から大正、昭和はじめまでは、あまり変わっていないことも驚きでした。

○昔の人と今食べている物のちがいがわかった。

○昔の人の食べ物を参考にしたいと思います。

○プリントを見ると答えが書いてあった。縄文時代の人がかむ回数も多く、食べる物も豊かで健康的だったと思います。

○縄文時代の食事が、いろいろと旬のものを使っていて、ぜいたくな料理もいろいろとあったんだとわかりました。

○今よりも旬を大切にしていた縄文時代などの方が、食が豊か（たくさんの物を食べていた）というのは驚きました。旬と言われる時期に食べるというのは大切だなと、大事なんだなと思いました。

○人の咀嚼回数が思った以上に減っているのに驚きました。

○平安時代の人と、現代の人のかむ回数、時間があんなにも違って驚いた。

○よくかんで食べようと思った。

○やわらかい食べ物でも意識的にたくさんかむようにしようと思いました。

○ガムをかむとねむけがとれるときいて、なるほどと思いました。

○静岡の名物をいろいろ教えてもらってわかりやすかったです。

○静岡に住んでいてよかったなあと思った。

○静岡県の特産品を意外と自分が知らなくて、もっと静岡のことを知りたいと思いました。

○桜エビが駿河湾でしかとれないことを初めて知りました。

○黒はんぺんを食べてみたいです。

○静岡は自慢できるところがたくさんあるなあ…と改めて思いました。

○わさびのすり方楽しかった。

- 身近な静岡の食材にふれたことで、講義の内容が日常の生活につながったのではないかと思います。
- とてもよかった。家族にも伝えたい。
- 難しかったけど勉強になった。
- ちゃんとお米を食べなきゃいけないと思いました。
- おなかがすいた。味噌汁っていいと思った。
- お米がおいしそうだった。昔の食べ物は豪華でおいしそうだった。
- こんどはコンビニのデザートやお菓子がもっと知りたいのでやってください。
- 実物があって実際に見たり、食したりできると、楽しいのでは。
- 実際の食べ物が出すことができれば最高でした。

第11回 世界の人と「こんにちは！」

- ゲストに外国の人がきていてびっくりしました。フィリピンのあいさつはとてもむずかしかったです。
- 英語の勉強、おもしろかったです。
- オズィ！！オイ！！が楽しかった。
- 世界の国のあいさつなどが分かりました。
- フランスのボンジュールのあいさつでは、最後に「は」とはくことがわかりました。フィリピンでは、クムスタとタガログ語でいうことがわかりました。
- いろんな「こんにちは」を知ることができてよかった。
- たくさんの国の言葉を覚えていきたいです。
- 国によって言葉、食べ物ちがうんだっておもった。楽しかった。友達になりたいと思った。
- 3人の国の歴史や気候がわかりました。日本に来ている外国の人たちがわかりました。
- いろいろな国の文化や言語などがよくわかりました。多くの国の人と交流の出来る国際人になりたいと思いました。
- 世界について、大きさや人口、あいさつなど知れておもしろかった。
- その国の中身が見えたようだった。
- 文化の違いや言葉の違いがたくさんあることがわかりました。
- いろいろな国のことを聞けて楽しかったです。
- いろいろな国の方がきて、実際にお話をしてくれたので、各国のことが詳しくわかりました。
- 実際の方のお話しやあいさつは新鮮でいいと思った。
- 留学生の日本語がとても上手で、日本が大好きだと言っていて、とても嬉しかったです。
- トレドさんが頑張って日本語で話してくれてうれしかったです。日本語の勉強頑張ってほしいです。バイト先でフィリピンの方と話すので、トレドさんとも話してみたいです。
- ゲストの外国人の話がおもしろかったです。もっと、あいさつなど実際に接したり、いろいろな国の人の話も聞いてみたいと思った。人口や名前など、客観的な話題はむずかしいのではないかと思います。
- 留学生の人が初めて日本に来た時は、言葉が通じずに目的の場所へたどり着くまで時間がかかってしまったと聞いて、僕も同じと思いました。違う国へまったく動けなくなる事がよく分かります。
- 日本人は英語が苦手ですが、外国人は短期間に日本語が上手に話します。努力以外の何かある

のかな。

○オーストラリアの人の話が印象に残った。日本人がどれだけ優しい人かよくわかった。

○国民性など、私たちがあたり前と思っていることが、外国人からみるとそうでないとわかったりして、とても興味がわきました。

○様々な国のよさ、また、日本のことをどう思っているのか分かって、おもしろかったです。

○国について学ぶ時に、その国の人から違いや、有名なことを聞くことは大切だなあ、楽しいなあと思いました。日本についても、内にいるだけでは分からないことがわかっておもしろかったです。

○留学生さんの出身国について、静岡県イメージについて聞くことができたので面白かった。

○世界へ少し近づいたような気がした。

○日本も好きですが、海外のいろいろな国も好きになりたいと思いました。

○韓国に行きたくなった。

○世界の国歌が聴きたくなった。

○各国の説明に図や絵があればよりわかりやすかった。

○ゲーム感覚で講義が進んでいったので、楽しかったです。「ヤッター！！」と歓声をあげながらさんかしていっちゃったことが印象的でした。

○なかなかこのような機会はないのでよかったです。

これまでの「学ばって楽しい！－大学で学ぼう－」

五条由美子

2005年度 第1回(通算：第1回)

	講義1	講義2
講義名	「科学って面白い －シャボン玉って超面白い－」	「人間が創る楽しさをとりまく世界」
講師	佐藤 早苗氏 シャボン玉遊び研究所主宰 元静岡県立吉原工業高等学校校長	東 俊光氏 静岡大学教育学部教授 元静岡大学教育学部附属養護学校校長
講義概要	いろいろなシャボン玉作りを実演し、シャボン玉の秘密をおもしろクイズで解きながら、驚きと感動と共に、その不思議を“科学してみよう”。	スケッチ旅行に訪れる機会の多いイタリアの言語と生活習慣について紹介したり、自分たちの生活と比較させたりすることで、異文化に対する興味・関心を深める。
参加者数	社会人（高校生を含む） 41人 大学生 24人 その他 24人 計 89人	

2006年度 第1回(通算：第2回)

	講義1	講義2
講義名	「駿府城をもっとよく知ろう」	「隣の国に行ってみよう ～ごきげんな韓国済州島～」
講師	小和田 哲男氏 静岡大学教育学部教授	並川 欣史氏 名鉄観光サービス株式会社 静岡支店 営業係長
講義概要	城はなぜ造られたか、城の種類などを概説し、駿府城の歴史、築城した徳川家康について解説する。また、駿府城を“探検”するための見所やポイントを考える。	魅力的な韓国済州島への旅行を紹介しながら、パスポートの取り方など海外旅行をするために役立つ情報を提供する。
参加者数	社会人（高校生を含む） 49人 大学生 35人 その他 35人 計 119人	

2006年度 第2回(通算：第3回)

	講義1	講義2
講義名	「宇宙人はいる?! 宇宙の不思議」	「やっぱりサッカーは最高! 2006W杯ドイツ大会を観戦して」
講師	寺尾 理氏 前静岡県総合教育センター教授	難波 邦雄氏 静岡大学教育学部教授
講義概要	地球に人間がいるように、宇宙のどこかの星には、宇宙人や生き物がいるのかなど、宇宙の不思議を分かりやすく、面白く講義する。	4年に一度開催されるサッカーW杯。今年行われたドイツ大会の観戦記やドイツの生活ぶりについて紹介する。また、氏がサッカーを通して学んだことや人との出会いについても触れる。
参加者数	社会人（高校生を含む） 46人 大学生 25人 その他 31人 計 102人	

2007年度 第1回(通算：第4回)

	講義1	講義2
講義名	「アイスブレイクからはじめよう! ～心理の世界へようこそ～」	「地震はなぜ起こる？」
講師	大畑 智里氏 静岡大学教育学部附属特別支援学校 教諭	小山 真人氏 静岡大学教育学部教授
講義概要	アイスブレイクを通して、初対面の人との緊張をときほぐす。無人島SOSゲームを体験しながら、周りの人とのコミュニケーションのこつを探る。	地震や津波が起こる仕組みを、ビデオやスライドを使って分かりやすく説明する。いつ起きてもおかしくないと言われる東海地震について、震度や津波の規模を予想する。
参加者数	社会人（高校生を含む） 46人 大学生 32人 その他 30人 計 108人	

2007年度 第2回(通算：第5回)

	講義1	講義2
講義名	「コンビニの秘密」	「モータってなんだ？ ～ペットボトルモータをつくろう！～」
講師	伏見 一茂氏 セブン・イレブン・ジャパン東海ゾーン ゾーンマネージャー	増田 好治氏 静岡大学名誉教授 NPO法人技術教育教材開発研究会 今田 真一氏 静岡大学教育学部附属特別支援学校 教諭
講義概要	おでんが一番売れるのはいつ？一日の時間帯ごとに売り場が変わるって本当？など、クイズ形式で、身近にありながら知らなかったコンビニエンスストアの秘密に迫る。	フレミングの左手の法則やモータの原理を説明した後、磁石と電池を使ったペットボトルモータを作成する。はんだごてにも全員が挑戦して、モータを完成させる。
参加者数	社会人（高校生を含む） 44人 大学生 30人 その他 35人 計 109人	

2008年度 第1回(通算：第6回)

	講義1	講義2
講義名	「不思議感動！科学する心とは！？」	「現代ファッション事情 ～流行は誰が考えるの？どうやって決まるの？～」
講師	熊野 善介氏 静岡大学教育学部教授（理科教育）	大橋 芳幸氏 株式会社コックス ブランド開発部長
講義概要	「実験をやりたい」という受講生の声に応えます！学びのパートナーとともに、実際に自分で作って体験し、科学の不思議にふれてみよう！	毎年発表される、流行ファッション。色や素材、形等は、誰がいつ、どのように決めているのでしょうか。実際にコーディネートしながら、どんな組み合わせがカッコイイのか考える。
参加者数	社会人（高校生を含む） 51人 大学生 34人 その他 38人 計 123人	

2008年度 第2回(通算：第7回)

	講義1	講義2
講義名	「消費生活を考えてみよう」	「音楽のしくみを知ろう ～うたのはじめはドレミ～」
講師	色川 卓男氏 静岡大学教育学部准教授（家政教育）	北川 敦康氏 静岡大学教育学部教授（音楽教育）
講義概要	自分の持ち物のうち「買った物じゃない」という物は、ほとんどない。買う＝消費について考える。	音楽はチョットした仕組みが分かると、より楽しくなる。ハンドサインや変わった楽器演奏に挑戦する。
参加者数	社会人（高校生を含む） 47人 大学生 43人 その他 43人 計 133人	

2009年度 第1回(通算：第8回)

	演習	講義1	講義2
講義名	アイスブレイク ～学びのなかま～	「人はなぜ悪いことをするのか？」	「世界へ羽ばたけ！富士山 静岡空港」
講師	大畑 智里氏 静岡大学教育学部附属特別支援 学校 教諭	石井 潔氏 静岡大学教育学部教授同学 部長	岩瀬 智久氏 静岡県空港部職員
講義概要	深呼吸でリラックス。気持ちよく相手とつきあうための距離感、席の選び方を考える。	「悪い」と分かっているのに「悪いこと」をするのは「仕方ない」から。「仕方ある」にするためには、どうしたらいいのか、社会の仕組みを考える。	6月4日に富士山静岡空港が開港。行き先は？空港の施設は？搭乗手続きは？働いている人は？空の旅の情報が満載。
参加者数	社会人（高校生を含む） 51人 大学生 23人 その他 33人 計 107人		

2009年度 第2回(通算：第9回)

	演習	講義1	講義2
講義名	アイスブレイク ～学びのなかま～	「TVCMっておもしろい」	「60分ヒップホップマスター」
講師	大畑 智里氏 静岡大学教育学部附属特別支援学校 教諭	佐々木 洋氏 電通東日本静岡支社クリエイティブ部 主務	中村 友香氏 静岡県立浜松特別支援学校 教諭
講義概要	フィーリング グッド効果 場所や雰囲気がよいと気分がよくなって仲よくなれる。	1本を作るのに10億円かかるCMもある。TVCMは、あの手この手を使って、私たちの気を引き、メッセージを送っている。	みんなで楽しくヒップホップに挑戦。ストレス発散、集中力もアップ。チームで踊ればパワー100倍。
参加者数	社会人（高校生を含む） 53人 大学生 36人 その他 34人 計 123人		

2010年度 第2回(通算：第10回)

	演習	講義
講義名	アイスブレイク ～学びのなかま～	「描くことの魅力を探ろう～色やかたちを見つめて～」
講師	大畑 智里氏 静岡大学教育学部附属特別支援学校 教諭	高橋 智子氏 静岡大学教育学部講師（美術教育）
講義概要	アイコンタクト 表情の中で、視線は特に重要。相手の目を見つめよう。目を合わせると笑顔になる。	クロード・モネの作品を鑑賞しながら、対象物を見る、とはどういうことなのかを考える。実際に「身近な植物」をモチーフに、えんぴつでスケッチをし、水彩絵の具で色を塗り、作品を完成させる。
参加者数	社会人（高校生を含む） 52人 大学生 35人 その他 40人 計 127人	

2010年度 第2回(通算：第11回)

	演習	講義1	講義2
講義名	アイスブレイク ～学びのなかま～	「日本の食生活を知ろう！」	「60分ヒップホップマスター」
講師	大畑 智里氏 静岡大学教育学 部附属特別支援 学校 教諭	新井 映子氏 静岡県立大学食品栄養学部 教授	案野 香子氏 静岡大学国際交流センタ ー准教授
講義概要	笑顔がつくる好印象 言葉の最後に無言の「イ」をつけよう。すてきな笑顔の基本です。	昔の日本人は何を食べていたのかな。お米を食べ始めたのはいつからだろう。原始の時代から現代まで、食べ物や食べ方の移り変わりを学ぶ。	世界にはいろんな国がある。オーストラリア、韓国、フィリピンからの留学生に、母国での暮らしや、日本や静岡の印象を聞く。
参加者数	社会人（高校生を含む） 46人 大学生 36人 その他 34人 計 116人		

スタッフ名簿

(あいうえお順)

学ぶって楽しい！－大学で学ぼう－実行委員会

(静岡県障害者就労研究会)

池 上 登 大 畑 智 里 五 條 由 美 子 柴 田 カ ヨ 子 瀬 戸 脇 正 勝
高 木 亮 滝 口 晃 央 田 中 宏 和 徳 増 五 郎 村 松 智 恵 子
渡 辺 明 広

静岡大学教育学部附属特別支援学校

今 村 美 香 大 石 恵 子 太 田 貴 夫 高 山 尚 子 増 田 一
若 松 唯 晃

静岡県立静岡北特別支援学校

國 宗 久 男 杉 山 奈 実 子 中 村 桃 子 八 木 育 恵

静岡県立藤枝特別支援学校

成 岡 愛 巳 萩 原 澄 枝 山 内 栄 次

島田市立島田第一小学校

柴 田 美 玲

このほかにもお手伝いいただいた方がいらっしゃったかもしれません。お名前が入っていない方がいらっしゃったら、申し訳ありません。

多くの方のご協力をいただき、ありがとうございました。

編集後記

今回は、第10回、第11回の「学ぶって楽しい！－大学で学ぼう－」について、記録をまとめました。

私は、スタッフとして、主に静岡駅での案内を担当しています。毎回、多くの受講生のみなさんが、通りすがりに挨拶をしてくれます。ほとんどの方が、もうバスの利用は心得ていて、自信を持ってバス停へと向かっていきます。それでも、ひとりやふたりは「バス停はどこですか」「どこへ行けばいいですか」と尋ねてこられます。私は、その方を案内しながら、新しい方が参加してくれているのだな、と、うれしく思います。青年学級では、多くの方が待ち合わせをして参加されています。いつも、同行されているスタッフのみなさん、ありがとうございます。

講義を終えた後、みなさんと帰りのバスで一緒になることがあります。会話を聞いていると、また新たな発見があります。以前、「コンビニの秘密」という講義を行ったときには、道路沿いにセブンイレブンを見つけ、さっそくコンビニの話題で盛り上がっていました。また、私たちが、今日はちょっと難しかったかなあ、と思っていた講義が意外と好評で、話題になっていることがありました。みなさんの知的好奇心の高さを感じ、単なる興味を追い求めるのではなく、本格的な学びを追求してきてよかった、と思った瞬間です。

これからも、みなさんの学びたい気持ちに応えられるように、大学講座を工夫していきたいと思います。「学ぶって楽しい！－大学で学ぼう－」を支えてくださっているみなさん、ありがとうございました。これからもよろしくお願いします。

（五條）

2010 静岡大学公開セミナー報告集（通巻第7号）

「学ぶって楽しい！－大学で学ぼう－」

学びの内容とその支援

発行日——2011年3月31日

編集——静岡県障害者就労研究会
（連絡先）静岡大学教育学部 渡辺明広研究室
☎054-238-4246

発行——静岡大学生涯学習教育研究センター
〒422-8529 静岡市駿河区大谷836
☎054-238-4817